

大垣女子短期大学

紀 要

第 66 号

2 0 2 5

目 次

原 著

保育実習における ICT の活用

ービデオカンファレンスによる部分実習の振り返りー ……………名和 孝浩…… (1)

保育現場と養成課程におけるレクリエーション技術の有効性

：現役保育士と学生の視点から見た実践的効果の検証

……………松岡邦明・垣添忠厚・田村禎章…… (13)

資 料

2024 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告

～ コロナ禍の 5 年間を振り返って～ ……………茂木 七香・松下 智子…… (23)

作 品

深呼吸～レ・プレリュード～ ……………黒田 皇…… (31)

彙報（学外における主な研究・教育並びに社会活動）…………… (33)

BULLETIN OF OGAKI WOMEN'S COLLEGE

NO.66 (2025)

CONTENTS

【Original Articles】

The Use of ICT in Childcare Practicum

: Reflection Through Video Conferencing Takahiro NAWA..... (1)

Effectiveness of Recreational Techniques in Childcare Settings and Teacher

Training Programs: Verification of Practical Development from the

Perspective of Students Aiming to become Childcare Providers

..... Kuniaki MATSUOKA,Tadahiro KAKIZOE,Sadaaki TAMURA..... (13)

【Reports】

Activity Report 2024 - Student Counseling Room

..... Nanaka MOGI,Tomoko MATSUSHITA..... (23)

【Works】

Deep Breath ~ Les Préludes ~ koh KURODA..... (31)

Miscellaneous (33)

OGAKI WOMEN'S COLLEGE

OGAKI,GIFU,JAPAN

November 2025

保育実習における ICT の活用 ービデオカンファレンスによる部分実習の振り返りー

The Use of ICT in Childcare Practicum : Reflection Through Video Conferencing

名 和 孝 浩
Takahiro NAWA

1. はじめに

1) GIGA スクール構想における現状と課題

日本における GIGA スクール構想について、文部科学省¹⁾は 2019 年に教育における ICT 化の取り組みで全国の小中学校における 1 人 1 台の端末整備とネットワークの構築を目指して一体的な整備が進められており、現在本格的な活用が開始されている。

しかし、現状ではいくつかの問題点も散見されている。例えば教員の ICT 活用における指導力については、教員自身の ICT 機器に関する知識不足が指摘されており、授業への適切な取り入れが進んでいないケースや、デバイス端末の管理や保管に関する課題があり、特に生徒による持ち帰り利用に際して、紛失や盗難のリスク管理が求められている²⁾とされている。

またこれらの GIGA スクール構想による変革は、初等・中等教育だけでなく、当然ながら、大学教育にも影響を及ぼしていると考えられる。特に、教職課程において、GIGA スクール構想に対応するため、ICT に関する指導力の育成が必要とされている。しかし、現状では、これらのスキルを十分に修得できていない学生も多く、カリキュラムの見直しが求められている³⁾。そのため大学教育においては、教員の ICT 指導力向上やカリキュラムの再編成、学生の ICT リテラシー向上のための支援体制の整備などが必要であると考えられる。さらに教職課程を有する大学は、より

この課題が顕著であると考えられる。初等教育の前段階にあたり、幼稚園教諭免許に関する教職課程のカリキュラムを受ける保育学生も、ICT を活用した教育への取り組みは必須である。

2) 保育における ICT 活用の現状と事例

保育における ICT の活用については、保育現場における子どもへの活用や保育者の業務軽減への活用が考えられる。令和 4 年度の調査で、保育施設における ICT の導入状況に関して保育業務支援システムを利用している施設の割合は 54.4% である⁴⁾と報告されている。このような ICT の活用により、保育者の業務効率化だけでなく、保育の質の向上にもつながる可能性がある⁵⁾と指摘されている。一方で、保育現場での実践に近い保育実習に関する ICT の活用についての割合や使用用途については現在全国的な調査はされておらず、現場保育者の ICT の活用と差があるのではないかと考えられる。

ところで、全国的な調査がされていないとは言え、現在取り組まれている保育実習での ICT の活用方法にはどのような具体例があるのだろうか。

まずは、実習日誌の作成と共有における活用である。これまで手書きで作成されていた実習日誌について、影浦ら⁶⁾は ICT を活用した実習日誌様式に関する企業との共同開発による実践を行っている。その結果、実習業

務の負担軽減による子どもとの関りの集中や不安の減少を確認している。また鳥海ら⁷⁾も、従来の手書きによる実習日誌は、学生にとって時間的・労力的な負担が大きいと指摘しており、ICTを活用して日誌をデジタル化することで、誤字脱字の削減や効率的な記録が可能となり、学生の負担軽減が期待できるとしている。記録のデジタル化による効果は、指導案作成でも示唆されており、修正や共有が容易であり、教育効果を高めるとされ、ICTを活用した指導案作成は、学生の計画力や表現力を向上させる効果がある⁸⁾と指摘されている。また伊藤ら⁹⁾は保育実習等におけるICT活用の経験と、ICT活用に関する印象との関係を調査しており、実習中にICTシステムを使用した経験が、保育現場でのICT活用に対する不安の軽減に影響を与えることを明らかにしている。保育実習でのICT活用は、実習自体の質向上のみならず、保育現場への入職後の影響もあると考えられ、保育者養成校でのICT活用は急務の課題と言える。

3) 目的

先行研究における調査では、主に実習記録に関するICTの活用が取り上げられていた。今後はGIGAスクール構想の流れにより、大学入学者全員がタブレット端末を常備していることも予測される。

そこで本研究では、ICT活用の一環としてタブレット端末の特性を活かし、保育学生の部分実習場面について、実習生と現場保育者がビデオカンファレンスを通じて振り返りを行う取り組みを実施した。その実践を通して、本手法の効果を検証することを目的とする。尚、部分実習とは、1日の生活の流れの中で、比較的まとまりのある場面を抜きだして、その部分だけの保育を計画立案、準備し、保育を実施して、評価・反省を行う¹⁰⁾ことを指す。

ビデオカンファレンスについては、タブレットを学生が所有し、その使用が一般化される

中で、学生の部分実習等の保育実践をタブレットで撮影し、現場保育者と振り返りを行うことで、より詳細で客観的な振り返りが可能となり、実習によるさらなる学びの効果が期待される。また実習におけるタブレット等のツール活用方法についても示唆が得られると考えられる。

2. 方法

保育実務研修における部分実習をタブレットで撮影し、保育学生と担任保育者とのビデオカンファレンス形式での反省会を行った後、筆者がインタビュー調査を実施した。

1) 対象

保育実務研修を実施している大垣女子短期大学幼児教育学科3年生2名および、それぞれの学生を担当する現場保育者2名である。対象となる現場保育者は、研修先保育施設において学生が配属されているクラスの担任保育者であり、日常的に学生への実践的な指導・助言を行っている。

2) ビデオカンファレンス

保育学生が自ら立案した指導案に基づいて部分実習を実施し、その活動の様子を、タブレット端末を用いて撮影した。活動時間は各約40分であり、学生Aは「紙コップロケット」の製作遊び、学生Bは花紙を用いたキノコの製作遊びを行った。撮影は、タブレットを三脚に固定し、保育の妨げとならない位置から定点で行った。実習後、各保育学生とそれぞれの実習指導担当保育者が、撮影した映像を用いて振り返りを実施した。

3) インタビュー

ビデオカンファレンスについて学生と実習指導保育者の双方にインタビューを行った。特にビデオによる振り返りの効果や普段の実習反省会との差異などについて聞き取りを实

施した。インタビュー内容は研究対象者の了解を得て、IC レコーダーに録音し、終了後逐語化して分析の手続きを取った。

インタビューについては、ビデオカンファレンスを用いた部分実習の振り返りが、学生の学修および現場保育者による指導にどのような効果をもたらしたかを検証することを目的として、半構造的インタビュー形式を実施した。質問内容は、保育学生と現場保育者の立場や経験の違いを考慮し、それぞれに適した内容で構成した。

保育学生には、「ビデオカンファレンスを通して自分の実践を振り返った際に感じた学び」や「保育者からのフィードバックによって得られた気づき」などを中心に尋ねた。一方、現場保育者には、「ビデオカンファレンスでの指導を通して感じた学生の変化」や「この方法による指導の有効性と課題」などについて質問した。なお、インタビューガイドは共通点も持たせつつ、それぞれの立場に応じた問いを用意しており、具体的な質問内容については下記に示す。

【共通の質問項目】

- ・ ビデオカンファレンスをしてどうだったか。
- ・ 普段の部分実習の反省会とビデオカンファレンスでは反省会の内容に違いはあったか。
- ・ ビデオカンファレンスをしてみて、今後の実習における ICT 活用についてどのように考えるか。

【学生用の質問項目】

- ・ ビデオカンファレンスをして学修が深まった点は何か。
- ・ ビデオカンファレンスをして難しかった点や困りは何か。

【保育者用の質問項目】

- ・ ビデオカンファレンスをして指導内容が深まった点は何か。
- ・ ビデオカンファレンスをして指導内容で

難しかった点や困りは何か

尚、本研究の方法と実施については本学研究倫理委員会において倫理基準等で審査され承認を得ている。

4) 分析

インタビュー後、調査内容を逐語化し、全体で 16,542 文字に及ぶ記録となった。従来はこのような長文の逐語録を手作業で分析することは、時間的・労力的に大きな負担が伴っていたが、本研究では AI を活用したテキストマイニング分析を行うことで、作業の効率化と客観的な視点での分析が可能となった。

テキストマイニングでは、語の出現頻度に基づいたワードクラウドや、語と語の同時出現関係（共起）を可視化する共起ネットワークを作成し、保育学生および保育者の発言の傾向を明らかにした。ワードクラウドでは、頻繁に使用された語句が視覚的に強調されるため、発話全体のテーマや関心の中心を把握しやすくなる。また共起キーワードの分析により、特定の語がどのような語と結びついて使われているかが明確になり、語と語の関連性や文脈的な意味を補足的に理解することができる。

以上の分析結果をもとに、逐語記録も参照しながら内容の解釈を行い、考察につなげた。

3. 結果

1) 保育者 A について

図 1-1 のワードクラウドでは、「振り返りやすい」とあるように、ビデオを用いたカンファレンスの振り返りやすさに言及していることが分かる。また「指導者」、「補佐」とあるように、部分実習中の主となる指導者だけでなく、補佐としての保育者の動きについて考えられていることがわかる。

図 1-2 では、「必要」「動く」「わかる」といった語が同一のクラスタに属しており、保育者がその時々保育実践において臨機応変な行動（＝動き）や判断の重要性を強調している

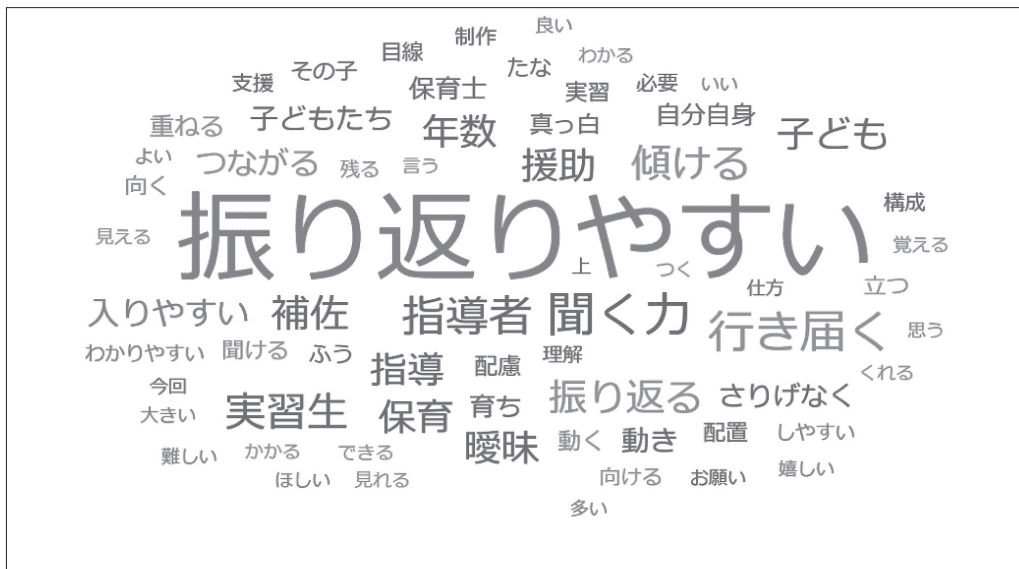


図 1-1 保育者 A のワーククラウド

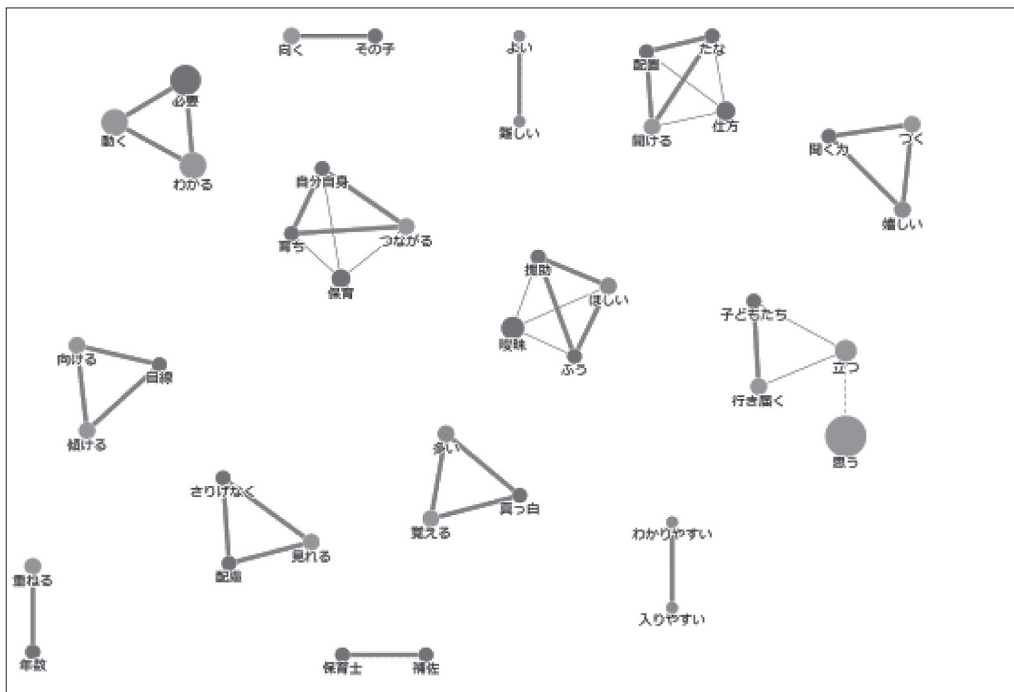


図 1-2 保育者 A の共起キーワード

ことがうかがえる。また、「聞く力」「嬉しい」などの語が別のクラスタに含まれており、これは保育学生に対する評価だけでなく、保育

の場にいる子どもたちの反応や成長にも意識を向けている様子を示している。

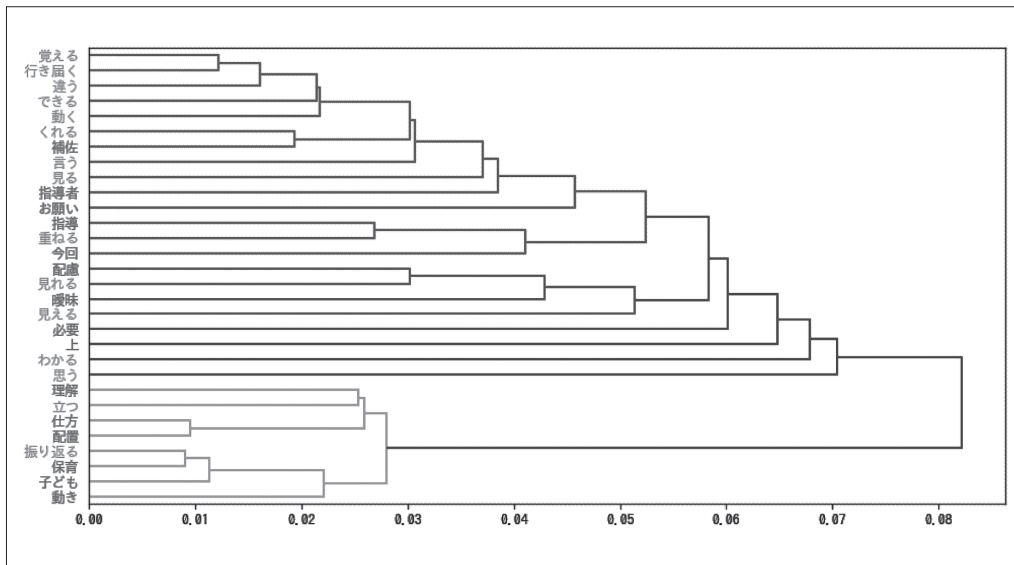


図 1-3 保育者 A の階層的クラスタリング

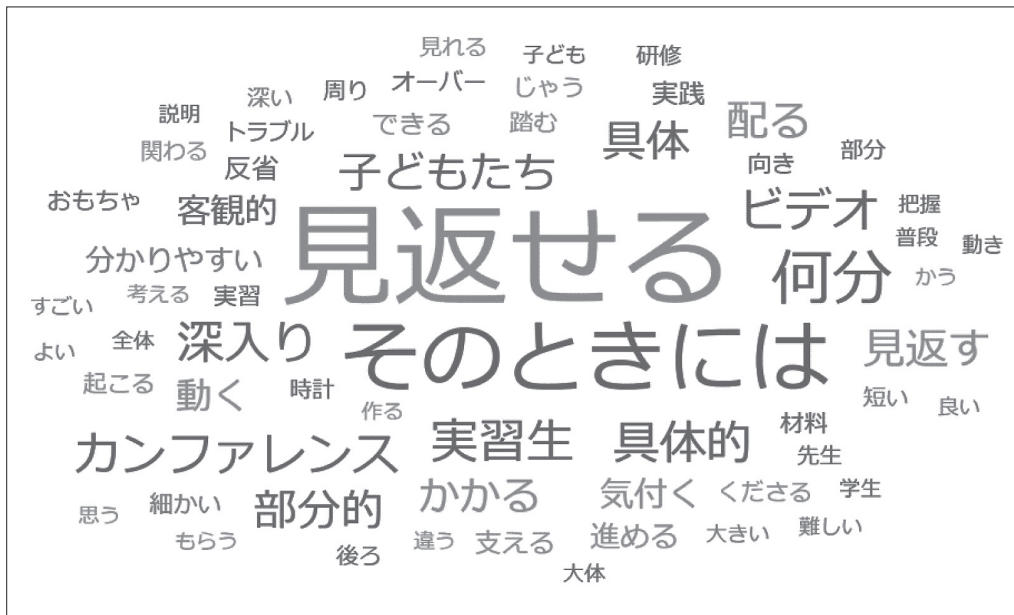


図 2-1 保育者 B のワードクラウド

図 1-3 の階層的クラスタリングにおいても、橙色のクラスには「振り返る」「子ども」「保育者」「動き」などの語が近接して分類されている。これは、保育者が実習後の振り返りの中で、自身や学生の動きだけでなく、子

もと保育者との関係性やその場の動的なやり取りにも着目していることを示唆している。図 1-2 と図 1-3 を合わせてみることで、保育者が子どもと保育者双方の行動や相互作用に対して意識を向け、振り返りに活かしている

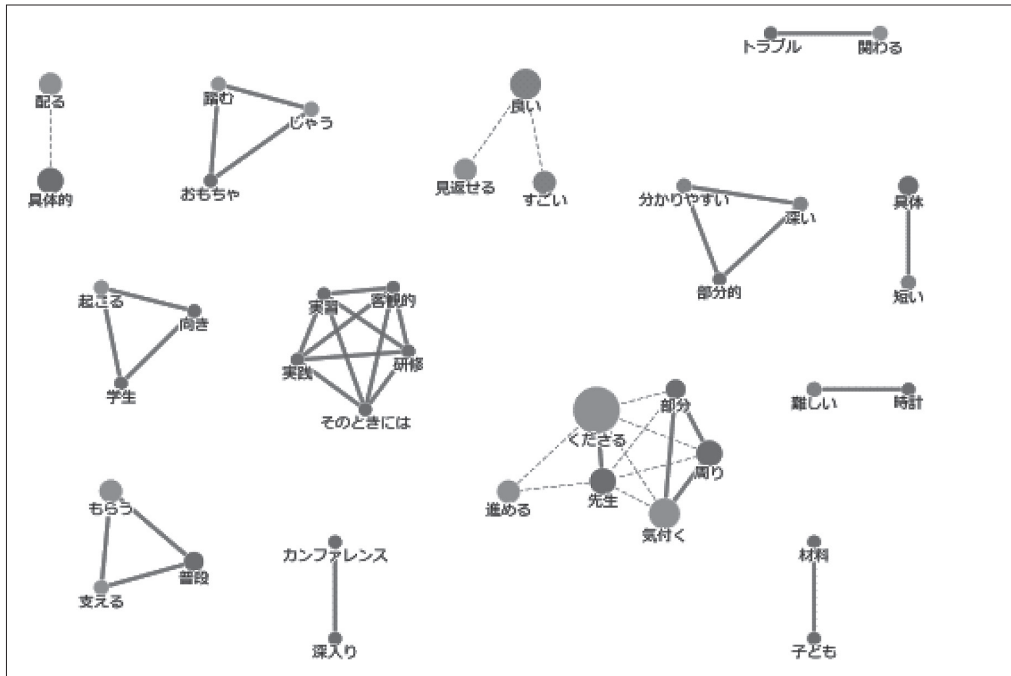


図 2-2 保育者 B の共起キーワード

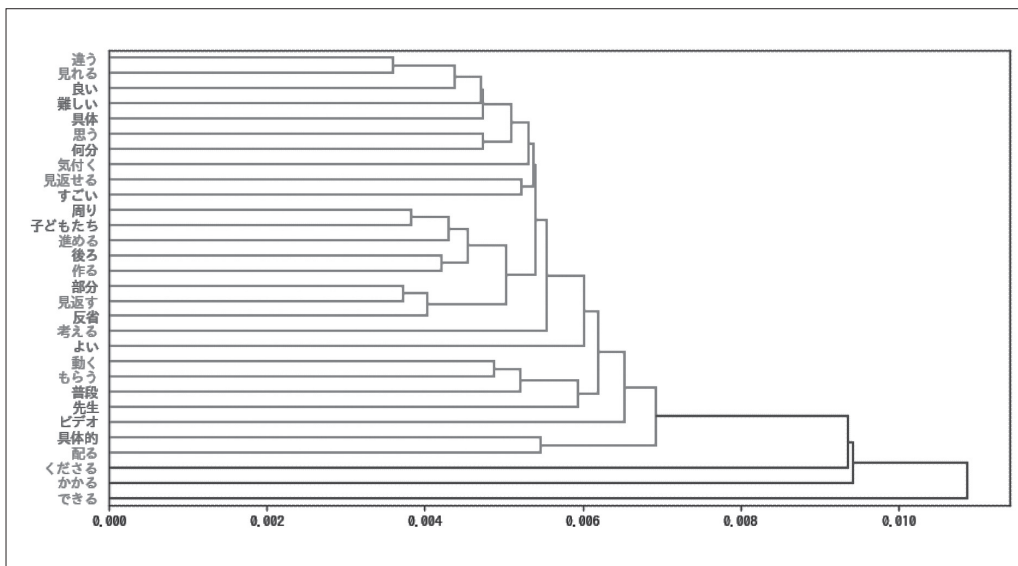


図 2-3 保育者 B の階層的クラスタリング

様子が可視化されていることがわかる。

「何分」「具体的」といったように、ビデオを見返すことによる具体的な実習内容や時間配分についての指導ができた実感が分かる。

2) 保育者 B について

図 2-1 のワードクラウドでは、「見返せる」



が共起し合っている。これにより、周りの保育者の動きへの気付きや、客観的な実習の見

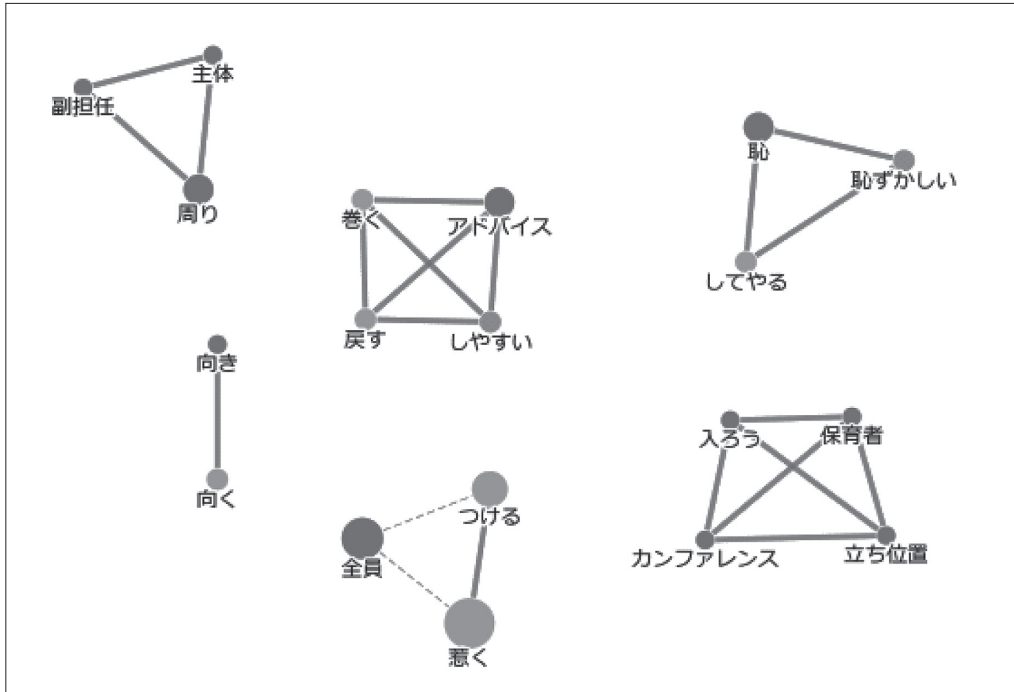


図 4-2 保育学生 B の共起キーワード

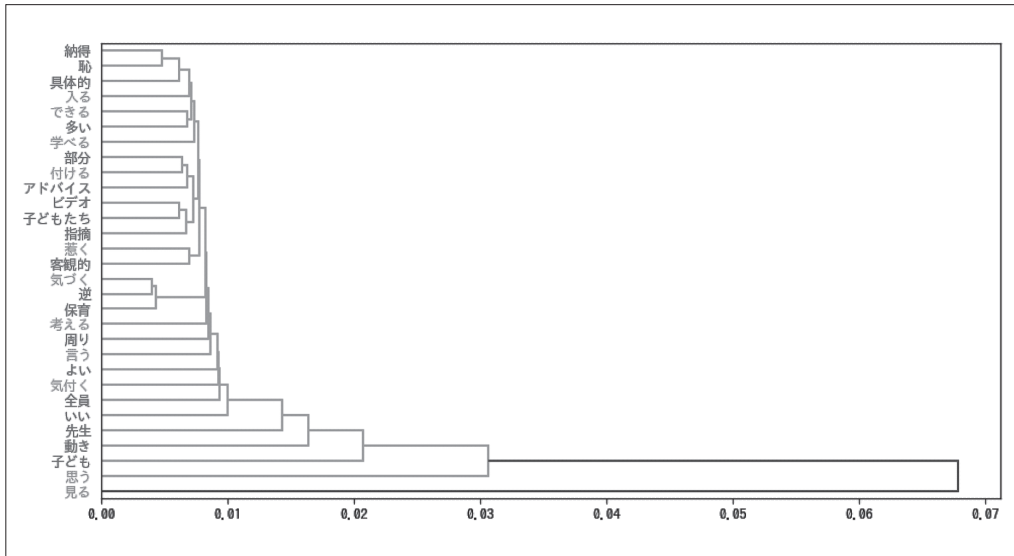


図 4-3 保育学生 B の階層的クラスタリング

を主軸にし、「話し合い」「ビデオ」「担任」といったことから、ビデオカンファレンスを通して担任との話し合いができたことを実感していることが分かる。

図 3-2 ではキーワードとして「納得」「動き」の出現数が多く、「反省会」「気づく」をつなぐ線が太くなっている。その周辺の「具体的」「動く」から、反省会を通して何らかの具体

的な学びを得ていることが分かる。

図 3-3 では、「指導」「振り返る」「周り」「動き」が近く、ビデオカンファレンスによる周りの動きについての振り返りが深まっていることが分かる。また図 3-2 で出現数が多かった「納得」は「わかる」「場面」と階層になっており、ビデオカンファレンスによって保育場面が具体的に共有されたことが、学生が指導に納得できた要因であると読み取れる。

4) 保育学生 B について

図 4-1 のワードクラウドでは、「保育者」「副担任」「客観的」といったように、部分実習における主となる保育者の動きだけでなく、副担任の動き方も学んでいることを指している。ビデオカンファレンスによる客観的な振り返りから、副担任の動きにも着目したことが分かる。

図 4-2 でも「副担任」「周り」「主体」をつなぐ線が太くなっており、図 4-2 と合わせて、自分以外の保育者の動きへの着目が分かる。図 4-3 では階層のグループは大きく分かれなかったが、「納得」「恥」が同じクラスタになっており、図 4-2 での「恥」「恥ずかしい」といったワードにもあるように、ビデオで振り返ることにより、子どもの前で恥ずかしがっている自分を客観視したことで、指導内容に納得したことが理由にある。

4. 考察

以上のテキストマイニングの分析から読み取れる特徴を考察する。

まずはビデオカンファレンスによる反省会における振り返りやすさについてである。これらは図 1-1、2-1、3-1 で顕著に見られると言える。特に現場保育者から指導のしやすさに関するワードが明らかであり、記憶に頼らず実際の映像を通して、指導箇所を具体的に指摘できたことが実感できると捉えられる。また具体性の中には、時間配分などの細かい

点も含まれ、より詳細な振り返りが行えたことが読み取れた。さらに指導の具体性に関しては、保育学生側のワードでも確認できおり、特に保育学生は現場保育者からの指導に納得感が得られていると考えられる。記憶のみを頼りに行う反省会では、現場保育者の指摘箇所が保育学生に正確に共有できていない可能性があり、その曖昧さは指導の伝わりにくさにもつながると考えられる。ICT を活用したビデオカンファレンスによって、指導の質が向上すると捉えられる。

また、ビデオカンファレンスを通して、現場保育者と保育学生の両者が「実習生以外の動き」に着目していることも分かった。主に図 1-1、2-2、3-3、4-1、4-2 で表れており、保育学生ではなく、その周りの保育者の動きにも着目されている。通常の実習では、主となった保育学生の動きについての振り返りが中心となると考えられるが、ビデオカンファレンスでは、保育学生以外の動きも自然と目にすることができる。そこで、部分実習中には気付かなかった周囲の保育者の補佐的な動きに気づき、ビデオカンファレンスを通して相互に意見を交わし合う中で可視化されたと捉えられる。映像により客観視できるからこそ、保育学生が自分だけで保育をしているわけではないと実感する契機となり、チームとしての意識へとつながるのではないかと考えられる。また図 1-2 では、保育者だけでなく現場保育者がクラスの子どもの育ちにも着目していることが分かる。部分実習のビデオカンファレンスは保育学生の保育内容だけでなく、現場保育者が自分のクラスの子どもの客観視し、育ちを捉え直す機会となっていることも示唆された。

5. おわりに

本研究では保育実習における ICT の活用として、タブレットを用いた部分実習のビデオカンファレンスを実施し、その効果をイン

タビュー調査とテキストマイニングから質・量的に分析した。その結果、ビデオカンファレンスに関する振り返りやすさや、保育学生をフォローする周囲の保育者の動きや子どもの動きへの着目が強まることが示唆された。

またビデオ撮影からカンファレンスまでの流れで困った点があったかについても聞き取りをした。カンファレンスについては、やや時間が延びること以外、特段の問題は報告されなかったが、ビデオ撮影については環境次第であると考えられた。今回の部分実習は室内での実施であったが、戸外での広い範囲の撮影や、他クラスと活動が重なった際の音声など、実際のタブレット使用については、撮影自体にも課題があると言える。

さらに本研究では研究対象が少なかったため、データとして不十分な点もある。今後対象を拡大することで、さらに効果や実際の実施方法に関しての課題が明らかになると考えられる。

引用文献

- 1) 文部科学省：デジタル学習基盤に係る現状と課題の整理、2024
- 2) 寺島 史朗：GIGA スクール構想の成果と課題、大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム、2024
- 3) 小倉 光明・佐藤 和紀・村松 浩幸・森下 孟：教員養成課程における GIGA スクール構想に対応した学生を対象とした教員の ICT 活用指導力の育成を目指した試み、信州大学教育学部日本教育工学会研究報告集：4、1-8、2021
- 4) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング：保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究報告書、令和4年度 子ども・子育て支援推進調査研究事、2023
- 5) 中津功一郎・玉川 朝子：ICT 導入の意義に着目した保育の質向上に関する研究－ICT 導入の意義に着目した保育の質向上に関する研究 大阪城南女子短期大学研究紀要：57、27-44、2022
- 6) 影浦 紀子・山口 真美・三好 冬馬・吉野 亜祐美：ICT を活用した子ども理解を深めるための記録のあり方－保育・幼児教育現場における実習記録の様式と指導の課題－、松山東雲女子大学人文科学部紀要、33：27-39、2024
- 7) 鳥海 弘子・江本 全志：保育実習日誌の ICT 化に向けて保育所と養成校の検討課題－東京都認可保育所への調査結果より－、未来の保育と教育 東京未来大学保育・教職センター紀要：11、41-46、2024
- 8) 黒木 晶・近藤 綾・田窪 玲子 平崎永里子・中野 圭子：パソコンを活用した指導案作成に関する研究－保育実習指導における指導案作成－、園田学園女子大学論文集：55、83-94、2021
- 9) 伊藤 夏帆・瀬々倉 玉奈：保育学生の ICT 経験と情報教育に関する調査－ICT 不安の観点から－、京都女子大学教職支援センター研究紀要：6、191-200、2024
- 10) 森上史郎・柏女霊峰：保育用語辞典、ミネルヴァ書房、180、2004
- 11) ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

保育現場における養成課程のレクリエーション技術の有効性 —保育士を目指す学生の視点からみた実践的展開の検証—

Effectiveness of Recreational Techniques in Childcare Settings and Teacher Training Programs: Verification of Practical Development from the Perspective of Students Aiming to become Childcare Providers

松岡 邦明¹⁾
Kuniaki MATSUOKA

垣添 忠厚²⁾
Tadahiro KAKIZOE

田村 禎章³⁾
Sadaaki TAMURA

1. はじめに

1) 研究の背景

本研究は、保育士養成課程に在籍する学生（保育系学生）を対象に、レクリエーション技術の実践的有効性について初歩的な検討を行うことを目的としている。具体的には、保育現場でのレクリエーション活動に対する学生の認識や、将来の保育実践における活用意識を明らかにすることを目指している。

近年、保育現場におけるレクリエーション活動は、幼児の情緒の安定や集団活動への適応を促す手段として注目されている。しかし、保育士養成課程においてレクリエーション技術をどのように教育し、実践に結びつけるかについては、まだ十分な議論がなされていない。本研究では、保育系学生を対象としたアンケート調査を通じて、レクリエーション技術に対する理解や保育現場での活用意識を把握し、その教育的価値についての基礎的な知見を得ることを目指している。

神野・谷口（2007）¹⁾は、体育・スポーツ系学生を対象とした調査から、少年期のレクリエーション経験が希薄であることから「青年層におけるレクリエーション意識の希薄化」を問題視している。また、下口・和田・山崎（2019）²⁾は保育士養成課程における実践的な学びを通じて、学生が保育現場での応用力を高めるための教育手法の重要性を強調している。本研究では、こうした保育士養成課程の多様化・専門化の必要性を踏まえ、レクリエーション技術の教育的有効性を検討すること

で、保育士養成課程における教育内容の充実に向けた示唆を得ることを目指している。

2) 研究の目的

本研究の目的は以下の通りである。

- ①レクリエーション資格が取得できる保育士養成課程で学んだ学生が、どのような学びを得ているかを把握し、その学びが実践力向上にどの程度寄与しているかを検討する。
- ②保育現場（保育実習・保育実務研修）において、学生がレクリエーション技術をどのように活用し、その技術が職務能力にどのような影響を与えているかを明らかにする。
- ③レクリエーション技術に対する学生の意識やニーズを基に、保育士養成課程における教育内容の充実に向けた示唆を得る。

本研究では、保育士養成課程におけるレクリエーション科目を受講した学生を対象にアンケート調査を実施し、学生がレクリエーション技術をどのように学び、将来の保育実践においてどのように活用したいと考えているかを把握することを目的とする。これにより、レクリエーション技術が学生の実践力向上や職務能力に与える影響についての基礎的な知見を得るとともに、保育士養成課程における教育内容の改善に向けた方向性を検討する。

2. 研究の方法

1) 文献調査

本研究では、保育士養成課程における「遊び」の意義と「レクリエーション技術」に関する既存の文献および研究を詳細に検討する。特に、保育教諭養成課程研究会（2022）³⁾の

1) 大垣女子短期大学幼児教育学科非常勤講師・一般社団法人岐阜県レクリエーション協会事務局次長

2) 大垣女子短期大学幼児教育学科専任教員

3) 一般社団法人岐阜県レクリエーション協会専務理事

研究を参考に、養成課程および保育現場におけるレクリエーション支援技術の導入事例とその効果に焦点を当て、収集・分析を行う。その目的は、現行の保育士養成課程におけるレクリエーション支援教育の課題を明確化し、今後の保育士養成教育におけるレクリエーション技術のあり方を展望するための基礎資料を得ることである。

具体的には、保育士養成課程や保育現場で実施されているレクリエーション支援技術の導入事例とその効果に関する研究を重点的に収集し、その内容を詳細に分析する。これにより、現行の取り組みにおける課題や成功事例を体系的に抽出し、保育士養成課程におけるレクリエーション支援教育の現状を把握する。さらに、郡司・山口（2010）⁴⁾の研究を基に、保育士養成課程における教育学や発達心理学の知見を参照しながら「遊び」の意義を再考し、「レクリエーション技術」の重要性を理論的に裏付ける。そして、これらの知見を基に、保育士及び幼稚園教諭（以下、保育者）が現場で活用できる効果的なレクリエーション活動の設計・実施に向けた実践的な指導法の開発につなげる。

本研究を通じて、保育士養成課程におけるレクリエーション技術の重要性を再確認するとともに、より効果的なレクリエーション支援教育のための新たな視点と知見を提供することを目指す。

2) 養成課程及び学生の状況

大垣女子短期大学幼児教育学科（以下、本学）は、岐阜県で唯一の3年制課程の保育士および幼稚園教諭の養成課程（以下、養成課程）として、保育現場における実践的な能力を養成している。1年次および2年次で保育に関する基礎知識・技術・保育観を習得し、3年次では4月から12月までの9か月間にわたる長期保育実務研修を実施する。この研修では、保育現場での実践と大学での理論学習を週単位で連動させ、実践的な経験を積み重ねながら理論的考察を深める。これにより、保育者として不可欠な実践的研究力、社会人基礎力、創造的な保育構想力を育成し、「子どもたちから信頼され、笑顔があふれる保育者」の育成を目指している。3年制という特長を活かし、卒業までに保育士資格をはじめとした各種資格取得を支援するとともに、保育者としての専門性を高める幅広い学びを提供している。本稿で検証する公益社団法人日

本レクリエーション協会が認定する「レクリエーション・インストラクター」もカリキュラムに包含されている。その結果、高い就職率を誇り、保育現場で活躍できる人材を輩出している。

本学科の養成課程は、実践力と理論的理解を重視し、保育者としての資質向上を目指した以下の特徴を有している。

- ①実践力重視のカリキュラム：長期にわたる保育実務研修を通じて、保育現場に必要な知識や技術を習得し、子どもとの関わり方や保育の実践的なあり方を深く学ぶ。
- ②理論と実践の連携：保育現場での経験を大学での授業で振り返り、理論的に考察することで、実践力と深い理解力を兼ね備えた保育者の育成を目指す。
- ③少人数制によるきめ細かい指導：少人数制のクラス編成により、教員と学生の距離が近く、個々の学生に応じたきめ細かい指導を実現する。
- ④充実した教育環境：実習室や図書室など、保育の学習に必要な施設・設備を整備し、学生が学びやすい環境を提供する。
- ⑤資格取得支援：保育士資格をはじめ、レクリエーション・インストラクターなど多様な資格取得を支援し学生のキャリア形成をサポートする。

3) アンケート調査

本学の学生を対象とした調査を実施する。具体的には、3年次生に対しては「幼児教育特講」、2年次生に対しては「スポーツ・レクリエーションⅠ」の授業後に研究の概要を説明し、同意を得た学生に調査用紙を配布し、回答後に回収する。

なお、本学の幼児教育学科では、日本レクリエーション協会の課程認定を受け、レクリエーション科目として、2年次前期に「幼児と運動・遊び」（卒業必修）、2年次後期に「スポーツ・レクリエーションⅠ」（選択）、3年次前期に「スポーツ・レクリエーションⅡ」（選択）、3年次後期に「スポーツ・レクリエーションⅢ」（選択）の4科目を受講することができる。

- ①調査対象：本調査は、本学の養成課程に在籍する2・3年生56名を対象として実施した。調査内容は表1のとおりである。
- ②調査期間：令和6年12月10日～12月13日
- ③調査方法・内容：対象者は本学の幼児教育学科（養成課程）に在籍する2・3年生である。各科目の授業内で研究趣旨を説

明書にて説明し、同意書を得た上で無記名の B4 サイズのアンケート調査票を配布し、直筆で記入した。

4) 倫理的配慮

本研究に伴う調査は「大垣女子短期大学倫理審査委員会承認（2024 年 12 月 9 日：R6-6）」を受けた上で実施した。調査対象者には以下の事項を説明し、同意を得た上で調査を進めた。データは無記名で記録し、個人情報の保護に十分配慮した。また、アンケートへの協力は成績評価に一切影響しないことを明

確に伝えた。

- ①調査結果は、教育および社会福祉分野の発展に寄与することを目的としており、研究者個人の利益には直結しない。記録データは無記名で管理し、個人が特定されないよう厳重に配慮した上で、共同研究者である一般社団法人岐阜県レクリエーション協会の事務局保管庫において厳正に保管する。
- ②本研究は、将来的に教育、保育、社会福祉分野において幅広く有益な知見をもたらすことが期待されるが、研究者および研究協力者に直接的な個人的利益をもたらすものではない。

表 1 調査における質問項目（原寸は見開き B 4 用紙）

1. 学年を記入 年生
2. レクリエーション学ぶ授業を受けた経験 1. ない 2. わからない 3. ある（科目数 科目）
3. 授業で学んだ技術を学外実習や学外活動で活用した経験 1. ない 2. わからない 3. ある（ 回）
4. レクリエーション活動に対する興味の度合い 1. ない 2. ややない 3. どちらでもない 4. ややある 5. ある
5. レクリエーション技術によって、保育（教育）者としての資質が向上すると思いますか 1. 思わない 2. やや思わない 3. どちらでもない 4. やや思う 5. 思う
6. レクリエーション授業で学んだ技術を学外実習や学外活動を体験し得たスキルは何ですか 1. コミュニケーション能力 2. リーダーシップ 3. 企画・運営 4. チームワーク 5. 自己管理 6. 時間管理 7. 創造性 8. 子どもなど、相手の気持ちを理解する 9. 問題解決能力 10. 異文化理解 11. その他（ ）
7. 学外実習や学外活動でレクリエーション活動を行う際に難しいと感じるのはどれですか 1. コミュニケーションの難しさ 2. リーダーシップ 3. 円滑な企画・運営 4. チームワークの難しさ 5. 自己管理 6. 時間管理 7. 創造性 8. 子どもなど、相手の気持ちを理解する 9. 問題解決能力 10. 異文化理解 11. その他（ ）
8. 授業で学んだ技術を保育現場や学外活動で活用した経験が、将来に活かせると思いますか 1. 思わない 2. やや思わない 3. どちらでもない 4. やや思う 5. 思う
9. 保育実習や学外活動で、レクリエーション活動を取り入れる機会がありますか 1. ない 2. ややない 3. どちらでもない 4. ややある 5. ある
10. 授業でのレクリエーション活動の頻度に対する満足度 1. 少ない 2. やや少ない 3. 適切 4. やや多い 5. 多い
11. これまでに地域のレクリエーション活動への参加経験 1. ない 2. わからない 3. ある（ 回）
12. 卒業してから、レクリエーション活動の希望 1. ない 1. ややない 3. 機会があれば 4. ややある 5. ある
13. 在学中にレクリエーション活動を実施するために必要な支援は何ですか 1. 資金的支援 2. 施設や設備の提供 3. 運営サポート 4. 相談窓口の設置 5. 引率者 6. その他（ ）
14. レクリエーション技術に関する意見や要望を自由に述べてください

5) 回答率

研究利用への同意のあった 56 人中 56 人の提出があり、回答率は 100% であった。

3. アンケート調査結果

アンケートの設問にしたがって、質問項目の単純集計をした結果について述べる。

表 2 回答者の学年内訳

学年	人数	比率
2 年生	33	58.9%
3 年生	23	41.1%
計	56	100.0%

本調査における回答者の学年分布は、2 年生が 58.9%、3 年生が 41.1% であり、合計 56 名が参加した。

表 3 レクリエーションを学ぶ授業を受けた経験

受講経験	人数	比率
ない	3	5.4%
わからない	1	1.8%
ある	52	92.9%
計	56	100.0%

レクリエーションを学ぶ授業を受けた経験について、92.9% の学生が「ある」と回答した。一方で、「ない」または「わからない」と回答した学生も合計 7.2% 存在した。これにより、ほとんどの学生がレクリエーションに関する知識やスキルを習得する機会を得ていることが確認された。

表 4 レクリエーションを学んだ科目数

科目数	人数	比率
1 科目	6	10.7%
2 科目	35	62.5%
3 科目	3	5.4%
4 科目	6	10.7%
無記入	6	10.7%
計	56	100.0%

レクリエーションに関する科目履修状況を調査した結果、回答者 56 名のうち 62.5% が 2 科目を履修しており、レクリエーションに関する科目がカリキュラムにおいて重要な位置を占めていることがわかった一方で、3 科目以上履修した学生の割合は 5.4% と低かった。

表 5 授業で学んだ技術を活用した経験の有無

経験	人数	比率
ない	7	12.5%
わからない	11	19.6%
ある	38	67.9%
計	56	100.0%

学生の約 68% が授業で学んだ技術を学外実習や学外活動で活用した経験があると回答し、理論と実践の結びつきを実感していることが示唆された。一方で、「わからない」と回答した学生が約 20% を占め、学んだ知識を実際の場面でどのように活かすのか、その関連性を十分に理解できていない学生も一定数いることが明らかになった。

表 6 授業で学んだ技術活用した経験(回数)

回数	人数	比率
1 回	9	16.1%
2 回	15	26.8%
3 回	6	10.7%
4 回	5	8.9%
未記入	21	37.5%
計	56	100.0%

上記の経験が「ある」と回答した学生の回数に関する結果では、4 割以上 (42.9%) が「1 回以上」授業で学んだ技術を活用していることが明らかとなった。特に、2 回以上の活用経験を持つ学生が全体の 26.8% を占めており、授業で学んだ知識や技能が一定程度、学生の実際の活動に活かされていることが示唆された。

一方で、未記入の割合 (37.5%) も高く、「全ての学生が学習内容を実践できているわけではない」または「授業で学んだ技術が現場でどのように活用されているかの認識が十分でない」という可能性も考えられる結果となった。

表 7 レクリエーション活動に対する興味

興味度	人数	比率
ない	1	1.8%
ややない	2	3.6%
わからない	6	10.7%
ややある	37	66.1%
ある	10	17.9%
計	56	100.0%

対象となった学生の 84% が、レクリエーション活動に対して「ややある」以上の興味を示した。一方で、「ない」または「ややない」と回答した学生は 5.4% にとどまったが、興味の度合いには個人差が見られた。また、「わからない」と回答した学生が 10.7% を占めた。

表8 レクリエーション技術で資質が向上するか

資質向上	人数	比率
思わない	0	0.0%
やや思わない	0	0.0%
わからない	2	3.6%
やや思う	30	53.6%
思う	24	42.9%
計	56	100.0%

「レクリエーション技術によって、保育（教育）者としての資質が向上するか」との問いに対し、53.6%が「やや思う」、42.9%が「思う」と回答し、全体の96.5%が肯定的な意見を示した。この結果は、レクリエーション技術が保育者としての資質向上に貢献するという認識が、学生の間で広く共有されていることを示唆している一方で、3.6%が「わからない」と回答しており、レクリエーション技術の具体的な効果や、保育者としての資質向上との関連性について、十分に理解できていない学生がいることもわかった。

表9 レクリエーション授業で学んだ得たスキル（複数回答可）

スキル項目	回答人数	回答率
コミュニケーション能力	39	69.6%
チームワーク	33	58.9%
子どもなど、相手の気持ちを理解する	24	42.9%
企画・運営	22	39.3%
創造性	14	25.0%

※全体の回答者数 (N=56)

※複数回答のため、回答率が合計100%を超える。

レクリエーション授業で学んだ技術の中で最も多くの学生が体験を通じて得たスキルは「コミュニケーション能力」であり、69.6%を占めていた。また、「チームワーク」を挙げた学生も58.9%と高く、これらのスキルが学生の学外活動において特に重要な要素であることがわかった。「子どもなど、相手の気持ちを理解する」は42.9%、「企画・運営」は39.3%と続き、これらも実践を通じて得られる主要なスキルを学生自身が習得した技術であると一定数認識していることが分かった。

一方、「創造性」は25.0%と比較的低い割合に留まった。この結果は、授業で学んだスキルが学外活動を通じて実践的に活用されていることを示しつつ、特定の分野でのスキル強化が課題として残ることを示唆する結果となった。

表10 レクリエーション活動が難しいと感じた事（複数回答可）

困難項目	回答人数	回答率
企画・運営	29	51.8%
リーダーシップ	16	28.6%
コミュニケーション能力	13	23.2%
問題解決能力	13	23.2%
チームワーク	11	19.6%

※全体の回答者数 (N=56)

※複数回答のため、回答率が合計100%を超える。

学外実習や活動において最も難しいと感じる項目として「企画・運営」が挙げられており、全体の51.8%に達していた。次いで、「リーダーシップ」が28.6%、「コミュニケーション能力」と「問題解決能力」がそれぞれ23.2%、「チームワーク」が19.6%と続いている。この結果から、活動を成功させる上で企画力や運営力が大きな課題であることが明らかになった。また、リーダーシップやチームワークなど、組織的なスキルも困難を伴う分野であることが示された。この結果は、学生が学外活動を円滑に進めるためには、計画性やリーダーシップ、対人スキルをさらに強化する教育的支援が必要であることを示唆した。

表11 授業で学んだ技術が将来に役立つか

将来性	人数	比率
思わない	0	0.0%
やや思わない	0	0.0%
わからない	2	3.6%
やや思う	23	41.1%
思う	31	55.4%
計	56	100.0%

「授業で学んだ技術を保育現場や学外活動で活用した経験が、将来に活かせると思いますか」という問いに対して、55.4%が「思う」、41.1%が「やや思う」と回答し、合わせて96.5%が肯定的な回答を示した。この結果は、学生が授業で学んだ技術を実際の場面で活かすことを期待しており、将来の保育者としてのキャリアに繋がたいと考えていることを示唆した一方、「わからない」と回答した学生も3.6%存在した。

表 12 レクリエーション活動の実施機会

実施機会	人数	比率
ない	0	0.0%
ややない	0	0.0%
わからない	9	16.1%
ややある	31	55.4%
ある	16	28.6%
計	56	100.0%

保育実習や学外活動においてレクリエーション活動を取り入れる機会について、55.4%が「ややある」、28.6%が「ある」と回答した。一方で、「わからない」と回答した者が16.1%を占め、レクリエーション活動の重要性や具体的な実施方法に関する理解が十分でない可能性を示唆した。

表 13 レクリエーション活動の頻度の満足度

満足度	人数	比率
少ない	0	0.0%
やや少ない	0	0.0%
適切	31	55.4%
やや多い	12	21.4%
多い	13	23.2%
計	56	100.0%

保育実習や学外活動においてレクリエーション活動を取り入れる頻度について、55.4%が「適切」、21.4%が「やや多い」、23.2%が「多い」と合わせて100%の学生が保育に関する活動においてレクリエーション活動が主要な活動として位置付けていることを認識し、また、レクリエーション科目で学んだ技術を実践力として発揮できる学びの場としての保育実習や学外活動が十分に満たされていることが分かった。

表14 地域のレクリエーション活動への参加経験

参加経験	人数	比率
ない	7	12.5%
わからない	11	19.6%
ある	38	67.9%
計	56	100.0%

回答者の67.9%が「ある」と答えており、過半数の学生が地域のレクリエーション活動への参加経験を持つことが明らかとなった。一方で、「ない」と答えた学生は12.5%、「わからない」と答えた学生は19.6%であり、約3割の学生が参加経験に自信がない、または不明確な状況にある。

表15 地域のレクリエーション活動への参加回数

参加回数	人数	比率
1回	5	13.2%
2回	18	47.4%
3回	8	21.1%
4回以上	3	13.2%
無記入	4	5.3%
計	38	100.0%

「地域のレクリエーション活動への参加経験」に関する調査結果から、47.4%の参加者が過去に2回、約4分の1の参加者が3回以上の参加経験を持つことが明らかになった。一方で、13.2%の参加者は1回のみ、5.3%の参加者は未回答であり、参加頻度には個人差が見られた。これらの結果から、地域におけるレクリエーション活動への関心の高さがうかがえる一方で、より多くの住民に活動へ参加してもらうためのさらなる取り組みが必要であることが示唆された。56名の回答者のうち、38名しか回答（回答率67.8%）していないことから、調査票の「地域のレクリエーション活動」という概念が十分に理解できていないと言える結果となった。

表 16 卒業後のレクリエーション活動の希望

活動希望	人数	比率
ない	4	7.1%
ややない	8	14.3%
わからない	38	67.9%
ややある	3	5.4%
ある	3	5.4%
計	56	100.0%

卒業後のレクリエーション活動への意欲に関する調査では67.9%が「わからない」と回答し、多くの学生が意欲の有無について明確な認識を持っていないことが明らかになった。また、「ない」または「ややない」と回答した学生が21.4%を占め卒業後のレクリエーション活動に対する関心が低い傾向も見られた。一方で、「ややある」および「ある」と回答した学生は10.8%にとどまった。

これらの結果は、学生が卒業後の職業や生活においてレクリエーション活動の具体的な役割や意義を十分にイメージできていない可能性を示唆した。

表 17 レクリエーション活動に必要な支援
(複数回答可)

支援項目	回答人数	回答率
運営サポート	29	51.8%
資金的支援	20	35.7%
施設や設備の提供	19	33.9%
引率者	10	17.9%

※全体の回答者数 (N=56)

※複数回答のため、回答率が合計 100%を超える。

在学中にレクリエーション活動を実施するために必要とされる支援として、「運営サポート」を挙げた学生が最も多く、全体の 51.8% を占めた。次いで、「資金的支援」(35.7%) や「施設や設備の提供」(33.9%) が挙げられ、物理的および資金的な支援の必要性が明らかとなった。一方、「引率者」を挙げた回答は 17.9% と比較的少なかったが、活動を進める上で人的サポートも一定の需要があることが示唆される。これらの結果から、学生が主体的にレクリエーション活動を行うためには、運営の仕組みや設備、資金面での支援が重要であることが示された。

4 考察とまとめ

本調査は、幼児教育系の学生 56 名を対象に、レクリエーションに関する学習経験、実践経験、および将来の展望について多角的に実施されたものである。以下に調査結果を踏まえた考察とまとめを述べる。

1) レクリエーション教育の現状

調査結果から、多くの学生がレクリエーションに関する科目を受講し、その知識やスキルを学外実習や学外活動で活かしていることが明らかになった。一方で、質問 3 (表 5) の結果から約 32% の学生が、授業で学んだ技術の活用の仕方が分からない、あるいは活用したことがないと答えているし、活用した経験数の問いには約 38% の学生が未記入であった。このことから、レクリエーションに関する知識が不足していたり、学んだ知識を実践に結びつけることに困難を感じていたりしており、授業内での学習内容と、実習現場や保育活動における実践の橋渡しをより強化し、学生が学んだ知識を具体的な場面で活用できるような指導方法の工夫を教授したり、学外活動や保育現場での実践前後の振り返りを強化することが求められていることが示唆された。

また、質問 7 (表 10) の結果からは、約 50% の学生がレクリエーション活動の企画・

運営、約 30% の学生がリーダーシップの技術の習得に難しさを感じているものの、質問 8 (表 11) の結果から約 95% の学生が授業で学んだ技術が将来に役立つと期待しており、より実践的な能力の習得を望んでいる。

中原 (2010)⁵⁾ は、保育士養成課程において、理論と実践を結びつける指導が重要であると指摘している。本調査の結果もこの指摘を裏付けるものであり、特にカリキュラムの充実が求められる。例えば、学生が主体的にレクリエーション活動を企画・運営する機会を増やし、実践的な能力を高めるための教育プログラムの再構築が必要である。

2) 学生のレクリエーションに対する意識

質問 4 (表 7) の結果から、約 84% の学生がレクリエーション活動に興味を示しており、多くの学生が授業に意欲的に取り組んでいるものの、約 5% の学生は、興味が「ない」または「ややない」としており、レクリエーション科目の受講が自身の興味関心に影響を与えていない可能性が示唆される。詳細な調査を通じて、学生のレクリエーション活動への興味に影響を与える要因を解明し、教育内容の改善や指導方法の工夫に役立て、レクリエーション科目を受講する学生のすべてに質の高い授業を提供する必要がある。

質問 5 (表 8) の結果からは、約 95% の学生がレクリエーション技術によって保育者としての資質向上に繋がると認識しており、将来の保育現場でレクリエーションを取り入れることが自身の保育展開につながるという意識を持ってレクリエーション科目を選択していると考えられる。

質問 9 (表 12) の結果から、保育実習や学外活動においてレクリエーション活動を実施したかが分からないとして約 16% の学生が存在することからは、保育現場におけるレクリエーション活動の浸透は進んでいるものの、より多くの学生がレクリエーション活動の意義を深く理解し、実践的なスキルを習得できるよう、教育課程におけるレクリエーションに関する指導の充実が求められる。

また、質問 11 (表 14) の結果から、約 30% の学生は地域におけるレクリエーション活動への参加経験が必ずしも多くなく、卒業後の保育現場以外でのレクリエーション活動への展望については明確なイメージを持っていないと考えられる。

郡司・山口 (2010)⁴⁾ は、自然体験やレクリエーション活動を通じて、保育者志望の学

生が実践的な意義を理解することの重要性を指摘している。本調査では、学生がレクリエーション活動の重要性を認識している一方で、その具体的な実践方法や将来への応用が不透明であることが示された。これにより、地域活動への参加を促進し、実践的な学びを深めるための指導が求められる。

3) 学生のレクリエーション活動の課題と展望

質問 11 (表 15) の結果から、多くの学生が地域活動に関与している一方で、地域活動への接触機会や意識にばらつきがあることを示している。したがって、地域活動への参加を促進する取り組みや、活動の意義を明確化する教育の強化が必要であると考えられる。

質問 12 (表 16) の結果からは、約 70% の学生が卒業後の地域でのレクリエーション活動の希望を「わからない」と言っている。これは、保育活動とレクリエーション活動には密接な関連があると考えられるが、その重要性が学生に十分伝わっていないことが課題として浮き彫りになった。

質問 13 (表 17) の結果からは、学生がレクリエーション活動を実施する上で、運営サポートや資金的支援、施設・設備の提供など、様々な課題を抱えていることが明らかになった。これらの課題を解決するためには、大学や地域社会が連携し、学生が主体的に活動できる環境を整備することが重要である。保育教諭養成課程研究会 (2022)³⁾ は、幼児教育を担う教員に求められる資質・能力を高めるためには、実践的な研修モデルの開発が必要であると述べている。本調査の結果もこれを裏付けており、特に運営サポートの不足は、学生が効果的なレクリエーション活動を企画・実施する上で大きな障壁となっている。

また、水野・加藤 (2009)⁹⁾ は、幼児教育における地域連携の重要性を指摘しており、地域社会との連携を強化することが、学生の実践的能力を高めるだけでなく、地域全体の活性化にも寄与することを示唆している。本調査でも、地域のレクリエーション活動に参加する学生が一定数いる一方で、参加経験がない学生が存在することが課題として浮き彫りになった。これらの結果を踏まえ、大学側の積極的な支援と地域社会との連携を強化することで、学生が主体的に活動できる環境を整備することが求められる。

4) 総括

本研究は、養成課程におけるレクリエー

ション技術の重要性とその実践的有効性を再確認するものである。特に、本学ではほぼ 100% の学生がレクリエーションを学ぶ授業を受講しており、この教育がカリキュラムにおいて中心的な役割を果たしていることが明らかになった。これは、保育者の専門職養成において、レクリエーション技術が不可欠な要素として認識されていることを示唆している。しかし、一部の学生がレクリエーション教育の意義や実践的な活用方法を十分に理解していないという課題も浮き彫りとなった。

山本・朴・安藤 (2009)⁷⁾ は、2 年制保育士養成課程において、児童の健全育成ニーズに応えるための専門職養成に現場実践力の育成が不足していると指摘している。本研究の結果もこの指摘と一致しており、レクリエーション教育は学生の現場実践力を強化するための重要な手段となり得ることが示唆される。具体的には、学外実習や地域活動といった実践的な学びの場を通じて、学生が学内で習得した理論を実際の保育現場でどのように応用できるかを学ぶ機会を増やすことが重要である。神野・西本・谷口 (2006)⁸⁾ も、レクリエーション資格取得を目指す学生に社会性の発達がみられることを指摘しており、レクリエーション教育の「副次的効果」として、実践的な活動を通じた学びが学生の成長に繋がることを示唆している。さらに、奥野・大西・吉田 (2009)⁹⁾ は、学生のレクリエーション活動において地域住民との交流を深める意図的な働きかけが重要だと指摘している。多様な世代や背景を持つ人々との交流は、学生の社会性やコミュニケーション能力を育み、地域社会への理解を深める。また、地域貢献活動への参加を通じて、学生の主体性や社会への責任感を醸成する効果も期待される。

効果的なレクリエーション教育のためには、カリキュラムの充実化に加え、学生の能動的な学習を促進する指導方法の改善や、実践的スキル育成に重点を置いた教育内容の強化が必要となる。具体的には、学生主体の地域向けレクリエーションイベントの企画・運営を通じて、実践力と地域住民とのコミュニケーション能力を育成することが考えられる。特に、レクリエーション活動の企画・運営やリーダーシップといった実践的なスキル育成に重点を置いた教育内容の強化が重要である。学生が主体的に活動に取り組み、実践知を深めるためには、受動的な知識伝達に留まらず、学生自身が能動的に関われる教育プログラムの開発が求められる。

さらに、レクリエーション技術が保育者としての資質向上に繋がるという認識は学生間で広く共有されている一方で、その具体的な活動展開や関連性についての理解が不足している学生もいることが明らかになった。この点に関して、実際の保育現場でのケーススタディや実践的な活動を通じて、学生がレクリエーション技術の有効性を体感し、その重要性を深く理解できるような機会を提供することが求められる。例えば、地域の子どもたちや保護者を対象としたレクリエーションイベントを学生が主体的に企画・運営する経験を通じて、実践力と地域住民とのコミュニケーション能力を同時に養うことができる。

地域レクリエーション活動への参加経験がある学生が約 68% である一方、参加経験のない学生や未回答者が約 32% 存在することも、地域活動への参加促進の必要性を示唆している。地域社会との連携強化は、学生の実践的スキル向上だけでなく、地域社会全体の活性化にも大きく貢献する。大学側は、地域活動に関する情報提供や参加奨励のための制度設計、地域団体や自治体との協力体制構築を通じて、学生が地域活動に積極的に参加できる環境づくりに努める必要がある。

このように、レクリエーション教育は、学生の現場実践力向上、社会性形成、そして地域社会への貢献といった多面的な効果を持つ可能性を秘めている。今後の研究では、これらの効果をより詳細に検証し、より効果的なレクリエーション教育プログラムの開発を目指していく必要がある。

5) まとめ

本研究は、保育士養成課程におけるレクリエーション技術の実践的有効性を検証し、養成課程および保育現場におけるその導入可能性を探るものである。研究成果は、教育課程の改善や保育士のスキル向上に寄与するだけでなく、地域社会における子ども支援の質向上にも繋がると期待される。特に、岐阜県における全世代の健康推進と地域活性化を目的とするレクリエーション普及を目的とする「ミナレク運動」政策¹⁰⁾やスポーツ実施率向上施策と連携することで、子どもたちの心身の発達を総合的に支援する体制の構築が可能となる(岐阜県, 2023)。

今後は、保育園の現場における保育士へのアンケート調査を実施し、養成教育と現場教育の接続に関する実態を明らかにする必要がある。また、現場の保育士がレクリエーシ

ン技術をどのように活用しているのか、その具体的な効果や評価方法について調査を行うことで、養成課程における教育内容のさらなる改善が期待される。このような調査結果を基に、保育士養成課程と現場教育との接続性を強化し、より実践的かつ効果的な教育プログラムの開発が可能となるだろう。さらに、レクリエーションが「心と身体、そして地域のエネルギーづくり」につなげることを実証し、その意義を確固たるものとするために、今後も研究を継続し、さらなる知見を積み重ねていきたい。

補遺

本研究は、大垣女子短期大学がミナレク運動の中心となるモデル校として積極的に関与していることから、特異性を有している。ミナレク運動とは、岐阜県および一般社団法人岐阜県レクリエーション協会が推進する、地域活性化と健康促進を目的とした施策である。具体的には、「ミナレク運動とは、明るく健康で笑顔あふれる『清流の国ぎふ』の実現を目指し、子どもから高齢者、障がいのある方もない方も、県民全員が1つ以上のレクリエーションを実践することで、『体』『心』『頭』の健康を増進させ、健康長寿につながる運動」である(岐阜県, 2023)¹¹⁾。松岡・田村(2023)¹²⁾は、このミナレク運動において、岐阜県知事が基準を定めて認定する「岐阜県レクリエーション推進団体」である県内の幼稚園や保育園と大学が連携し、「ミナモ体操」等を実施し、子どもたちが楽しみながら運動能力を高めるとともに、協調性や人間性を育む機会を提供している。大垣女子短期大学は、このミナレク運動の実施と研究において中心的な役割を果たしており、本研究における実践的なデータ収集や教育プログラムの開発においても重要な位置を占めている。そのため、本研究は、ミナレク運動を背景とするレクリエーション推進が図られやすい環境要因に基づき、他の研究には見られない特異性を有している。

引用・参考文献

- 1) 神野賢治, 谷口勇一. 大学における「レクリエーション教育」に関する社会学的研究—“体育・スポーツ系学生”への意識調査から導き出す今日的課題. レジャー・レクリエーション研究, 30(1),

- p20-24,2007.
- 2) 下口 美帆、和田 幸子、山崎 玲奈：保育者養成課程における学びの集大成としての「理想の保育園づくり」―「保育実践演習」の授業実践と考察、京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要、57: p151-162、2019.
 - 3) 保育教諭養成課程研究会：幼児教育を担う教員に求められる資質・能力を高める研修モデルの開発、2022.<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BC15757147>,2024.12.25.
 - 4) 郡司 賀透、山口 裕貴：小学校教育と就学前教育の接続を踏まえた保育者志望学生の自然体験の意義理解 ― 幼児教育教員および保育士養成課程における教授ストラテジーの実践、郡山女子大学紀要、46: p193-202、2010.
 - 5) 中原 大介：保育士養成課程における「社会福祉援助技術」導入の経過と教育実践に関する研究、大阪健康福祉短期大学紀要『創発』、p93 -102、2010.
 - 6) 水野 浩志、加藤 隆子：幼稚園教諭・保育士養成のための幼児教育概論、おうふう、2009
 - 7) 山本 裕詞、朴 賢淑、安藤 操里：2年制保育士養成課程における新たな専門職性の視点 ― 児童の健全育成ニーズに応える専門職養成の事例から、東北大学大学院教育学研究科研究年報、57(2): p387-400、2009.
 - 8) 神野賢治、西本夏枝、谷口勇一.レクリエーション教育の副次的効果に関する社会学的研究―レクリエーション資格認定課程受講生の「社会性」形成に着目して.レジャー・レクリエーション研究、29(1), p22-31、2006.
 - 9) 奥野孝昭、大西敏浩、吉田祐一郎.レクリエーション支援教育における教育的効果～「レクリエーション交流大会」に参加した学生の変容をもとに～.四天王寺大学教育紀要,62, p317-327、2016.
 - 10) 岐阜県ねりんピック推進事務局：レクリエーション：ミナレク運動の推進、2023.<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/15597.html>,2024.12.25.
 - 11) 岐阜県教育委員会：岐阜県幼児教育アクションプラン改訂版「ぎふっこ」すこやかプラン、2023.<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/4604.html>,2024.12.25.
 - 12) 松岡 邦明、田村 禎章：A 幼稚園における発達障がい児への幼児体育指導の実

践 ― レクリエーションを幼児体育指導に取り入れることの有効性の検証から、ユマニテク教育研究所紀要、2: p30-51、2023.

2024 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告 ～コロナ禍の 5 年間を振り返って～

Activity Report 2024 - Student Counseling Room

茂 木 七 香¹⁾
Nanaka MOGI

松 下 智 子²⁾
Tomoko MATSUSHITA

1. はじめに

2019 年 12 月に新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の世界的な流行が始まり、大垣女子短期大学（以下、本学）でも 2020 年 4 月からコロナ禍で様々な対応を行って来た。2020 年度は前期授業の開始を延期し、翌月までオンライン授業等を行ったが、それ以降は一部授業を除き通常通りの対面授業を実施した。2024 年 12 月現在、学生・教職員のマスク着用義務付け、密を避けるための授業時の座席指定、昼食時の対面・会話禁止、各種イベントの縮小・中止など、COVID-19 の感染拡大状況に応じて行われてきた対応は全て無くなり、一見すると学生たちはコロナ前の大学生活を元通りに楽しんでいるようである。

しかし、コロナ禍の 5 年間を過ごしたことは厳然たる事実であり、「本来あるはずだったキャンパスライフの喪失」¹⁾を強いられた過酷な状況での日々は、学生たちにも教職員にも様々な形で影響を与えているものと思われる。

本学の学生相談室におけるコロナ禍でのその時々への対応については、毎年の活動報告にまとめてきた^{2)～5)}。今年度の活動報告は、2024 年度の活動をまとめるとともに、2020

年度から 2024 年度までのコロナ禍の 5 年間を振り返りながら、コロナ禍が私たちに与えた影響と今後の課題について明らかにしたい。

2. 学生相談室の取り組み

(1) 学生全体を対象とした取り組み

1) 学生相談室のオリエンテーション

学生相談室では、毎年 4 月の年度初めの大学全体のオリエンテーションの中で、学生相談室の紹介や利用方法の説明などを行ってきた。過去 5 年間の実施状況は表 1 に示す通りで、感染拡大の激しい時期には学科毎に分かれてインターネットを通じたりリモート説明、その後は大ホールで間隔を空けての対面説明、従来どおりの大講義室での対面説明、と徐々に本来の状態に戻すことが出来た。後日個別相談に訪れた学生が「オリエンテーションで相談室の話を聞いた時から利用したいと思っていた」「(高校の時と同じように)相談室の人が居るんだと分かって安心した」などと話していたことから、顔の見える形で担当者が直接説明を行うことの重要性を実感した。また、説明資料とともに相談室の連絡先や予約方法を記載した A7 サイズのカードを配付しているが、対面説明で「もしものために携帯ケースや定期入れに入れておいて」と言う目の前で入れる学生も多く、相談時に「いつも持ってます!」と取り出して見せてくれることがある。コロナ禍のリモート説明は間接的であったため、このような伝わり方も弱くなってしまっていたであろうことが窺える。

1) 大垣女子短期大学総合教育センター教員／学生相談室常勤カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）

2) 大垣女子短期大学学生相談室 非常勤カウンセラー（臨床心理士・公認心理士）

表1 5年間のオリエンテーション実施状況

年	実施場所	実施方法	資料配付
～2019年度	大講義室	対面説明	あり
2020年度	(オリエンテーションは中止、後日授業で動画によるリモート説明と資料配付)		
2021年度	各学科教室	リモート説明	あり
2022年度	大ホール	対面説明	あり
2023年度	大講義室	対面説明	あり
2024年度	大講義室	対面説明	あり

2) UPI (University Personality

Inventory、学生精神的健康調査)の実施

学生相談室では学生の心身の状態を把握するため、2008年度からUPI学生精神的健康調査(University Personality Inventory、以下UPI)を年度当初に実施している。UPIは全国学生保健管理協会が1968年に開発した心理検査であり多くの大学で用いられている⁶⁾。

5年間のUPI実施状況を表2に示す。

表2 5年間のUPI実施状況

年	実施方法	実施時期	回収方法
～2019年度	オリエンテーションで紙に印刷したものを配付しその場で記入	4月	その場で回収
2020年度	Googleフォームのリンクを学内LMS(学生ポータル)で送信し入力	5月	入力のない場合は全体に向けて学内LMS(学生ポータル)を通じて入力依頼
2021年度	Googleフォームのリンクを学内LMS(学生ポータル)で送信し入力	4月	
2022年度	Googleフォームのリンクを学内LMS(学生ポータル)で送信し入力	4月～5月	
2023年度	Googleフォームのリンクを学内LMS(学生ポータル)で送信し入力	4月～5月	
2024年度	Googleフォームのリンクを学内LMS(学生ポータル)で送信し入力	4月～5月	

コロナ禍を境に、対面・紙での実施から各自でのフォーム入力へと実施方法が変更となった。配付や回収の時間短縮、他人に知られず自分のペースで回答できる、などの利点はあるが、回収率が低下したことは否めない。コロナ禍を機に学内のICT化が進み、学生への連絡にメールや学内LMSを用いたり、授

業でGoogleフォームやGoogle Classroomを使用したりする機会が多くなった。学生たちのICTリテラシーも全般的に高くなってはいるが、一方で取り残される者もあり、メールやLMSでの連絡が本人に届いていない可能性もある。コロナ禍前の紙での実施に戻すことは困難だが、対面説明時に時間を取りその場で全員に入力させるなど、回答内容の充実と回収率の確保を踏まえた対応が必要である。

3) 初年次教育における心理教育的授業

2020年度から、1年次生を対象とした初年次教育プログラムの一環である「教養・キャリア基礎演習」の1コマを使って保健室と学生相談室による心理教育的授業を行っている。各担当者が4月に実施した健康診断とUPI等の結果を解説し、学生たちが自らの心身の状態に目を向けて、健康の大切さを意識して大学生活を過ごせるよう促している。5年間の心理教育的授業の実施状況を表3に示す。

表3 5年間の心理教育的授業の実施状況

年	実施場所	実施方法
～2019年度	実施なし	
2020年度	各学科教室	リモート説明
2021年度	各学科教室	リモート説明
2022年度	大ホール	対面説明
2023年度	大講義室	対面説明
2024年度	大講義室	対面説明

感染状況が収まるにつれて、リモートから対面、大ホールから講義室へと、より身近に直接伝えられる形で実施することが出来た。この授業はUPIの未入力者に入力を促したり、学生相談室利用を勧めたりする機会でもあり、授業後に学生相談室への予約を申し込む学生も例年あったことから、学生相談室からの発

信の場として内容を充実させて続けたい。

4) 学生相談室だよりの発行

学生相談室だよりの発行についてはコロナ禍でも特に大きな変化はなく、毎年4～5号を発行し、学生相談室前とカフェテリア、各学科掲示板の学内6か所に掲示した。内容はその時々の感染拡大状況に合わせ、COVID-19によるメンタルへの影響のセルフチェック、感染予防への注意喚起等の記事も掲載した。

5) 学生相談室主催イベントの実施

本学では、相談室から情報発信を行い居場所を提供することで、潜在的な相談ニーズがある学生や自ら援助要請ができない学生の対人関係を広げ、支援に繋げることを目的として、2021年度から相談室主催のイベントを開催している。イベントは非常勤カウンセラーの勤務日に合わせて木曜日の15時20分～17時の間ならば、予約不要で誰でも参加可としている。常勤カウンセラーは専任教員として授業を担当しており学生との距離に個人差ができてしまうため、イベントの運営全般と

当日対応は、全ての学生にとって中立的な立場である非常勤カウンセラーに一任している。イベントを開始してから4年間の取り組みを表4に示す。

イベントの実施回数は非常勤カウンセラーの都合や相談予約件数によって増減し、特に2024年度は相談予約数が多かったため、イベントを実施する機会が少なかった。また、参加人数についても、イベント実施の周知時期が異なり、学生の放課後の空き状況も補講等で異なるため、ばらつきがあった。コロナ禍においても一度に参加できる人数を制限したり、マスクをしたまま参加できる内容にするなどの工夫をして継続することができた。

イベント開始当初は一緒に何かを作る形の取り組みが多かったが、2023年度には「食と会話」に重きを置き、期待以上の盛況と効果を実感することができた。しかし、当日の準備や片付けが大変であったことから、2024年度は「食」よりも「作業がもたらす効果」に着目して実施した。前期のゼンタングルは、決まったパターンを描いて作品にする過程で無心になりリラックス効果をもたらすアートであり、参加学生からは「集中して描いたか

表4 学生相談室主催イベントの4年間の実施状況

年度	日にち	タイトル	実施場所	参加人数
2021年度	12月16日	アロマソープを作ろう	学生相談室	14
	1月13日	シュシュを作ろう	学生相談室	8
2022年度	4月21日	石粉粘土で小物を作ろう	学生相談室	1
	4月28日	ゼンタングルを描いてみよう	学生相談室	2
	6月3日	匂い袋を作ろう	学生相談室	4
	7月21日	ビーズアクセサリーを作ろう	学生相談室	0
	10月2日	上手に気持ちを伝えてみよう	学生相談室	0
	11月24日	シュシュを作ろう	みずきサロン	0
2023年度	5月16日	アロマストーンを作ろう	学生相談室	3
	6月15日	アロマストーンを作ろう	学生相談室	3
	11月16日	サツマイモのバター焼きを作ろう	学生相談室	35
2024年度	7月25日	サイダーを飲みながらゼンタングルを描いてみよう	学生相談室	4
	12月19日	マシュマロを焼きながらコミュニケーションゲームをしよう	学生相談室	12

らすっきりした」「夢中になれて楽しかった」などの感想が寄せられた。後期のコミュニケーションゲームでは会話量、初対面、非言語等をターゲットにした市販のカードゲームを3種類用意した。マシュマロを食べた後にゲームを行い、「友人の意外な一面を知れて楽しかった」「すごく盛り上がった」「ゲームが話題を提供してくれたので（友人と）初めてちゃんと喋れた」と好評であった。

これらのイベントは、学生相談室での個別相談とは異なる対話を経験する場であり、学年や学科を超えて交流できる貴重な機会である。また、初対面同士の関わりだけでなく、友人同士で参加した場合にも新たな一面に出会うなど、既存の関係をさらに深めることができた。コロナ禍によりリアルな対人関係の経験が希薄になった学生たちに新たなコミュニケーションの機会を提供する場として、内容や実施方法を改善しながら引き続き継続したい。

(2) 相談室利用学生を対象とした取り組み

ここからは、学生相談室を利用した学生に対する取り組みを報告する。

1) 個別の学生相談

コロナ禍の5年間の相談件数と相談人数を表5に示す。この期間中は、UPIの結果に基づいた呼び出し面接の実施・未実施の条件が異なり、また、障害学生への合理的配慮のための面接の対象者が途中で加わったこともあるため、数字の多寡は単純には比較できない。相談日の設定については、カウンセラーと相談希望学生の空き時間の合う日時としており、常勤カウンセラーが出張や授業、会議等に対応できなかったケースがあるため、相談室利用者数は利用希望者数とは異なっている。

本学では、COVID-19の影響で全国的に休校が実施された2020年度にも4-5月を除いて対面授業が行われていたのだが、2020年度

表5 5年間の学生相談件数と相談人数

年	相談件数	相談人数
～2019年度	79	65
2020年度	29	23
2021年度	85	69
2022年度	97	77
2023年度	87	72
2024年度 (12月まで)	70	59

の相談件数は先に述べた事情を鑑みても他年度に比べると顕著に少ない。この時期に筆者が参加した他大学とのオンライン交流の場では、オンラインや電話で相談を継続していた大学では相談数が増加したという声もあったが、一方で本学のように減少したという声もあった。「オンラインによる孤独」が問題となっていたこの時期に、対面授業により少なくとも人と顔を合わせる機会が持っていたことが学生たちにとって安心感に繋がり、相談の必要性が低下したのではないかとと思われる。

2) 合理的配慮に関する対応

本学では、2019年度から学生支援委員会障害学生支援部会と学生相談室が中心となって、障害等を理由とした特別な対応が必要となる学生への合理的配慮の体制の整備を行ってきた。コロナ禍においても特に変わりはなく、学生からの申し出があれば学生相談室で面談を行い、配慮申請書類を作成して教職員への情報共有と個別対応の依頼を行ってきた。2024年度には、同年4月からの障害のある人への合理的配慮の義務化を機に、従来の書類の書式等を見直すとともに、教職員用の依頼文書に合理的配慮と基礎的環境整備を行う根拠となる資料を追加した。これらの制度については対応件数の増加に伴って学内にも浸

透し、学科教員が学生との日常的な関わりの中で、何らかの支援や配慮が必要だと感じた場合にこの制度を紹介し、そこから学生相談室に繋がる事例も増えている。何をどのように行うのが合理的配慮の範囲内なのかは個別の科目内容や本人の状況によって異なるため、個々の事例の相談には個別に対応している。

3. コロナ禍特有の状況についての考察

この5年間で行って来た以上のような取り組みを、コロナ禍特有の状況を踏まえ、以下のような観点で考察する。

(1) 授業形態の変化による影響

近年本学に入学してくる学生たちは、コロナ禍により授業がオンラインになり、人と人との接触が制限された中で中学高校時代を過ごして来た。授業のリモート化は本来の対面授業とは異なるため弊害も挙げられるが、一方で対面の一斉授業時よりも個別の関わりが多く「脱落する学生が少なくなった」との報告もある⁷⁾。リモート授業下では通学や対人関係のストレスも無く、大学入学後に問題を抱えて相談室を訪れた学生に高校時代の様子を尋ねた際には「リモートだったので学校行きたくないとかはなくて欠席回数も心配なかった」「自分のペースで授業を受けられたし疲れることもなかった」と答えていた。コロナ禍では、通学の負担や対人緊張への耐性が低いままで学校生活を過ごすことが可能だった分、コロナ後の大学生活ではストレスを溜めたり休みがちになったりするケースが見られた。

この状況については、現状の対面での授業形態や大学生活にこれらの学生が適応すべきだという見方もあるが、リモートならば適応できたという学生たちの実態に合わせた手法や設定を従来からの授業や大学生活に新たに取り入れるという発想もできるのではないかとと思う。上野⁸⁾はコロナ禍を振り返って大学

という場を捉え直し、講義を受けるだけではなく友人との出会いや会話、課外活動などを共有体験する場としての大学キャンパスが不在であったと指摘する。学生にとって大学キャンパスは正規のカリキュラムに加えて共有体験という隠れたカリキュラムを体験する場であり、その役割は今後も変わらないと言うのだが、これらの体験は必ずしも対面の会話でしか成し得ないものではないはずだ。コロナ禍では直接会える機会が少なくなり、チャットやメールのような文章でのコミュニケーションでの要件だけのやりとりが増えて、雑談が生まれにくかったと上野は述べているが、少なくとも要件だけのやりとりが出来れば、周囲と繋がることは可能となる。

藤本⁹⁾によると、テレワークやリモート授業ではコミュニケーションを必要最小限ですまうことができるため、微かなやり取りや情緒的な対話が少なくなり、自閉的な傾向や対人恐怖的な傾向がある人にはむしろありがたいのだそうだ。対面授業には参加できない学生が、リモート授業になら参加できていたという事実は、多様な学生を今後大学で受け入れて教え育てていく上でヒントになるものとも言える。コミュニケーションが苦手な学生にはいきなり対面の場を強いるのではなく、まずはリモートやテキストでつながって既知の関係を作り、そこから対面の場へ導くという方法を取ればスムーズに適応できるのではないか。今後、学生相談の場だけではなく、授業や学生対応の場面にも取り入れていきたい。

(2) コミュニケーションの変化による影響

人と直接接したり話をしたりすることが少なくなったコロナ禍では、人との会話がオンラインやラインやメールなどのテキストを通じて行われることが多くなった。学生からは「人と関わらなくて良いので楽だった」という声も聞かれたが、このような距離感で他

者との関係を密に持たない時期を過ごした結果、大学での対面の人間関係を構築するのが困難になってしまったケースもある。学生相談室を訪れた学生の中にも「高校生の時はオンライン授業だったので友達ができなくて…」「行事とかもなくて人と関わる機会があまりなかった…」と話し、今の生活で他者と繋がれない辛さを訴える姿が見られた。高校時代をコロナ禍で過ごした松田¹⁰⁾は、会話のオンライン化を経験して対面での会話がいかに快適で、繊細で複雑な活動であったかを再認識したと述べており、対面での会話を日々経験することの重要性が示されている。

さらに高石¹¹⁾は、対面から遠隔へ、対話から文字によるコミュニケーションという学生生活における体験様式の変容はコロナ禍によって加速され、学生の主体性や共感性の低下を招いたと指摘している。実際に本学での相談学生にも、主体性の低い進路選択により入学後に不適応感を覚えたり、適応しようと努力するあまりに心の余裕が無くなり疲弊してしまったりするケースが多く見られた。畑屋¹²⁾はこれに関連して、実際の対話や関わりに基づく体験が希薄な分、インターネットなどでの情報に頼る面があり、「ネットでは普通は…」と個性や固有性のない相談が多くなったと述べている。本学でも、ネットで調べた特徴を示して「自分は〇〇だと思う」と、障害名や特性を口にする相談者が以前より増えている。

(3)「全ての人が当事者である」ということの影響

学生が心理的ストレスを抱えている場合、通常の大学生活ではそれをケアする側として教職員が位置づけられている。しかしコロナ禍ではすべての人が心理的ストレスを抱える当事者であり、ケアする側とされる側という安定した関係が崩れてしまったのも大きな特徴である。2020年度の学生相談件数は他

年度に比べて少なかったことは先に述べたが(表5参照)、その理由の一つとして思い当たるのがこの点である。この時期に学生相談室や授業で接した学生たちは「先生たちも大変なのに…」「大変な時にすみません」という言葉を度々口にしていた。通常の大学生活ならば、学生が支援の必要な状況に陥った時には教職員から支援を受ける「主役」としての立場が確約されているのだが、コロナ禍では誰もが被害者のような立場であったため、援助要請ができなかった可能性もある。この点については高石も学生相談向けの文章で、コロナ禍でストレスに晒されているのは学生も私たち(注:学生相談担当者)も同じであり、私たちが安心と安全を感じられない環境では適切に学生を支えることはできないだろうと述べており¹³⁾、コロナ禍には学生たちがケアを受ける側として安心して相談できる状況だと思えなかったのではないかと反省すべき点である。

4. 今後に向けて

多感な思春期をコロナ禍で過ごし、ネットを通じて自身が望む時に望む相手と繋がれば良いという断片的なコミュニケーションを日常的に経験してきた学生たちにとって、社会全体がポストコロナの段階に入った現状は、リアルで継続的なコミュニケーションを求められる場であり、一種の生きづらさを抱えている学生も多いのではないと思われる。小川はその論文の中で、コロナ禍を経て関係性やコミュニケーションの根本の価値が覆された今、学生の多様なありかたにも一層拍車がかかったように感じられ、これからの学生支援においても「つながる」の実感を得られるような工夫が求められると述べている¹⁴⁾。これに基づき、2024年度の相談室主催イベントは「カウンセラーに守られた場面でグループ活動の体験を共有して『つながり』を回復する」という視点で行い、手ごたえを得ること

ができた。

コロナ禍を経た今、私たちがこの先に目指すのはただ単にコロナ前に立ち戻ることではない。コロナ禍で個人が受けた心の傷つきの影響は年単位で学生や教職員、カウンセラーの将来に影響を与え続けると言われており¹⁵⁾、そこからの回復が長期的な課題となつてゆくのである。

加えて新たな視点として、私たちが突然のコロナ禍で懸命に適応した結果として慣れ親しんだ「コロナ禍の自分」を失う不安や寂しさ¹⁶⁾についても、心を向けておきたい。マスク越しの会話に安心したり、人と関わらず自分のペースで過ごすことを優先したりする学生たちを元通りに振舞うよう急かすことなく、コロナ後の新しいコミュニケーションの方法や適応の形を学生の実態を踏まえて考えて行きたい。

引用文献

- 1) 高石恭子：理事長メッセージ「こころの「密」を取り戻すための長い道のりに向けて」、学生相談ニュース、No.129：1-3、2021.
- 2) 茂木七香：コロナ禍での学生相談室の活動、大垣女子短期大学紀要、62：61-66、2021.
- 3) 茂木七香：2021 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告、大垣女子短期大学紀要、63：111-117、2022.
- 4) 茂木七香、松下智子：2022 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告 ～メンタルヘルス教育の導入と学生相談室イベントの開催～、大垣女子短期大学紀要、64：55-64、2023.
- 5) 茂木七香、松下智子：2023 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告、大垣女子短期大学紀要、65：(準備中)、2024.
- 6) 平山 皓、全国大学メンタルヘルス研究会：大学生のメンタルヘルス管理 UPI 利用の手引き、創造出版、東京、2011、

pp.10-11.

- 7) 内田樹：コロナ後の世界、文芸春秋、東京、2021、pp. 63-67.
- 8) 上野武：大学キャンパスと都市、現代思想 10 月号特集：コロナ時代の大学、48(14)：131-140、2020.
- 9) 藤本修：コロナ不安に向き合う、平凡社、東京、2020、pp.178-180.
- 10) 松田花奈：会話のオンライン化から考える、耳塚寛明、油布佐和子編、コロナ禍から学ぶ、ぎょうせい、東京、2021、pp. 151-159.
- 11) 高石恭子：コロナ禍が加速した学生の体験様式の変容について ―こころの「密」の喪失と回復という観点からの一考察―、甲南大学学生相談室紀要、29：40-52、2022.
- 12) 畑屋真由美、井元健太、川合耕一郎：学生相談室の活動報告 ―コロナ禍の対応と合理的配慮の体制整備―、日本工業大学研究報告、53：62-66、2023.
- 13) 高石恭子：学生とともに、未来へ、学生相談ニュース、No.126：1-3、2020.
- 14) 小川将司：2023 年度における学生相談界の動向、学生相談研究、45(1)：46-56、2024.
- 15) 高石恭子：今こそ、個へのまなざしを、学生相談ニュース、No.124：1-2、2020.
- 16) 高石恭子：理事長メッセージ 巣ごもりから飛び立つとき、学生相談室ニュース No.133、1-2、2020.

黒田 皇

KURODA koh

准教授／デザイン美術学科

第 98 回国展 2024 出品

会場

国立新美術館（東京・六本木）

2024.5/1（水）～13（月）

巡回展

名古屋展（愛知県美術館ギャラリー）

5/21（水）～26（日）

主催 国画会

後援 NHK 厚生文化事業団

公益財団法人 日本自然保護協会



『深呼吸 - レ・プレリュード -』 180×220cm CG

彙 報

学外における主な研究・教育並びに社会活動 (令和6年4月～令和7年3月)

A. 論文・著書、学会等研究活動、作品展・演奏活動

論文・著書

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	横井 香織	大垣音楽人クラブ春のつどいコンサート	演奏	大垣スイトピアセン ター音楽堂	7.2.16
立崎 博則		art life gifu	作品展	LA LUCANDA	6.11
岡本 英通	Tetsushi Kawasaki, Mutfried Hartmann, Frank Thissen	A Scoping Review Focusing on the Competencies Developed by Head- Mounted Display Virtual Reality in School Education	論文	2024 International Conference on Culture-Oriented Science & Technology (CoST)	6.9.18
	なし	VRを用いた義務教育段階を対象とする 教材の開発	学会発表	教育システム情報学会 東海支部 研究会	6.5.11
	なし	HMD 型 VR を用いた教育実践について	学会発表	教育システム情報学会 東海支部 研究会	6.12.14
	Tetsushi Kawasaki, Mutfried Hartmann, Frank Thissen	A Study on Stress Levels when Using Head-Mounted Display Virtual Reality for Learning Spatial Shapes in Mathematical Education	学会発表	Die Jahrestagung der GDM 2025	7.3.6
宮本 絢子	白神 敬介	自治体の保育主管課の方針による保 育・行事計画の見直しと保育士の業務 負担感およびストレスの関連	査読付論文	日本家政学会誌 75(4),147-157,2024	6.4
日原 広一		デザインプロセスにおける「抽象化& 視覚化」の課題を、生成 AI で解決支援		Adobe、Too サイト	7.2.20
黒田 皇		第 98 回国展 (東京・名古屋)	展覧会出品	国立新美術館 他	6.5.1 ~ 6.5.13
		第 62 回中部国展	展覧会出品	愛知県美術館ギャラ リー	6.11.19 ~ 6.11.24
		ACT 展	展覧会企画 出品	岐阜県美術館県民ギャ ラリー	7.2.18 ~ 7.2.24

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
横井 香織	オーモリウインドアンサンブル	オーモリウインドアンサンブル 第 13 回定期演奏会	演奏	一宮市民会館大ホール	6.7.14
	光井 恵子	第 44 回 大垣音楽人クラブ会員による コンサート ～春への誘い～	演奏	大垣市スイトピアセン ター音楽堂	7.2.16
森岡 佐和	神代修ほか	大阪教育大学 ウインドオーケストラ ハートフルコンサート Vol.9	コンサート (指揮)	ザ・シンフォニーホール	6.9.6
	神代修ほか	大阪教育大学 ウインドオーケストラ スペシャルコンサート	コンサート (演奏)	ザ・シンフォニーホール	6.9.6
Kenji Matsushita	Numazaki, K., Tada,H., Nishioka, T., Nemoto, E., Mizoguchi, I. and Sugawara, S.	Neutrophil extracellular traps inhibit osteoclastogenesis.	原著論文(英文)	Biochem Biophys Res Commun 705: 149743, 2024.	6.4.1
	Furukawa M, Tada H, Raju R, Wang J, Yokoi H, Yamada M, Shikama Y, Saito T, Saido TC,	Effects of tooth loss on behavioral and psychological symptoms of dementia in app knock-in mice.	原著論文(英文)	J Oral Biosci. 66(2):329-338.2024.	6.4.1
	Giri S, Takada A, Paudel D, Uehara O, Kurashige Y, Kuramitsu Y, Furukawa M, Arakawa T, Nagasawa T, Abiko Y, Furuichi Y.	Oral infection with <i>Porphyromonas gingivalis</i> augmented gingival epithelial barrier molecules alteration with aging.	原著論文(英文)	J Oral Biosci. 66(1):126-133, 2024.	6.4.1
	Yokoi H, Wang J, Ikuyo Y, Yamada M, Shikama Y, Furukawa M	Long-term sorbitol consumption affects the hippocampus and alters cognitive function in aged mice.	原著論文(英文)	Genes Cells. 29(5):432-437. 2024.	6.5.1

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
Kenji Matsushita	Furukawa M,	Premature gray hair development	原著論文(英文)	Genes Cells.	6.5.1
	Yokoi H,	in the interbrow region owing to the		29(5):417-422. 2024.	
	Wang J,	loss of maxillary first molars in young			
	Ikuyo Y,	mice.			
	Tada H,				
Kenji Matsushita	Yamada M,				
	Shikama Y				
	Ikuyo Y,	Capsaicin modulates TRPV1, induces	原著論文(英文)	Genes Cells.	6.11.1
	Yokoi H,	β -defensin expression, and regulates		29(11):1069-1076, 2024.	
	Wang J,	NF- κ B in oral senescent cells and a			
Kenji Matsushita	Furukawa M,	murine model			
	Raju R,				
	Yamada M,				
	Aoki Y,				
	Shikama Y,	Involvement of metformin and aging	原著論文(英文)	Biofactors.	7.1.1
Kenji Matsushita	Otsuka K,	in salivary expression of ACE2 and		51(1):e2154, 2025	
	Shikama Y,	TMPRSS2.			
	Furukawa M,				
	Ishimaru N				
	Editors:	Antiaging Checkup: Evaluation of	教科書(英文)	Anti-Aging Medicine	6.11.1
Kenji Matsushita	Hidekazu	Oral Age		Basics and Clinical	
	Yamada,			Practice, pp.557-559.	
	Yuji Naito			Published by Springer	
				Nature	
	Saji N,	Association between periodontal	総説(英文)	BMC Oral Health.	7.3.1
Kenji Matsushita	Takeda A,	disease and age-related cognitive		25(1):373.2025.2025.	
	Sakurai T.	impairment: a narrative review.			
松下 健二	日本歯周病学会編(分担執筆)	歯周炎がアルツハイマー病(AD)の増悪との関連において想定されるメカニズム	総説・治療ガイドライン(和文)	歯周病と全身の健康 2025. pp.158-161.	7.3.1
Taiji Obayashi	Nishi, H., Kajiya, M., Ohta, K., Shigeishi, H., Munenaga, S., ... & Kawaguchi, H.	Relationship of oral bacterial number with medical hospitalization costs in analysis of Diagnosis Procedure Combination database from single institution in Japan.	原著論文	Scientific Reports, 2024, 14: 11114.	6.5.15
吉田 康夫	高谷嵐之介, 赤羽根健生, 池田 和由, 加藤 悦子	タンパク質構造を基盤とした抗歯周病菌薬の開発	ポスター発表	第68回日本薬学会関東支部大会	6.7.1
山田 三良	(著者非公開)	歯科衛生士書き込み式学習ノート③	共著		6.7.10

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
Mitsuyoshi Y	Ikuyo Y, Yokoi H, Wang J, Furukawa M, Raju R, Aoki Y, Matsushita K	Capsaicin modulates TRPV1, induces β -defensin expression, and regulates NF- κ B in oral senescent cells and a murine model	原著論文	Genes to Cells, 29(11) 1069-1076	6.9.12
山田 三良	千田 彰 他	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	共著		7.1.20
	(著者非公開)	歯科衛生士国家試験ポイントチェック③	共著		7.1.20
大谷 悦世	松久 保隆 齋藤 敦 松久保美和 國保 敬子 田口ななこ 藤森 瑠依 田島菜穂子 鈴木 恵子 竹之内 茜 大谷 悦世	歯科医師・歯科衛生士のための超音波デブライドメント	著書	一世出版株式会社	6.4
	松久 保隆 佐藤 涼一 竹之内 茜	歯科医師・歯科衛生士 国試対策ブック 衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規 パッと見ておぼえられるまとめテーブル 2024	著書	一世出版株式会社	6.9
	竹之内 茜	全国の歯科衛生学生の歯科衛生士としての将来に対する意識調査	学会（ポスター発表）	日本歯科衛生学会第19回学術大会（朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター）	6.9.23
茂木 七香	松下 智子	2023年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告	論文	大垣女子短期大学紀要 第65号	7.3.31
		若年消費者啓発のための産学官連携プロジェクト ～「買輩革盟（バイヤーカクメイ）」の活動による効果と学生の学び～	論文	大垣女子短期大学紀要 第65号	7.3.31
	山口 智子 (編集者)	老いのところと寄り添うところ (改訂)	著書（分担執筆）	遠見書房	7.2.10

B. 社会的・啓発的活動

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	大垣市・大垣女子短期大学	豊かな感性を育てる子育てとは	講師	子育てママ大学大垣女子短期大学	6.5.9
	大垣市こども未来部	子育て支援会議	会長	大垣市役所	6.5.14, 6.7.9, 6.8.20, 6.10.16, 6.11.27, 7.2.10
	大垣市こども未来部	こどもの居場所作り懇談会	委員	大垣市役所	6.4.30, 6.8.21, 7.1.28
	岐阜県教育委員会	幼少架け橋プログラムカリキュラム開発会議	委員	岐阜県総合教育センター	6.6.5, 7.2.14
	安八町結子育て支援センター	音楽を使つてのふれあい遊び	講師	結子育て支援センター	6.8.28
	大垣市保育者等研修会	ピアノが苦手でも実践できるリトミック・動きの指導法	講師	大垣市子育て総合支援センター	6.10.7
	㈱ポピンズ	子育て支援員研修	講師	長良川スポーツプラザ、ソフトピアジャパン他	6.10.22, 6.10.27, 6.10.29, 6.11.2
	大垣市子育て総合支援センター	子育てに音楽を～輪になって歌って遊ぼう～	講師	大垣市子育て総合支援センター	6.12.19
	大垣市教育委員会	留守家庭児童教室運営委員会	会長	大垣市役所	7.2.5
川島 民子	大垣市子育て総合支援センター	ふれあい遊びで楽しもう	講師	キッズピアおおがき子育て支援センター	7.3.18
	安八町学校教育課	安八町教育支援チーム会議	委員	ハートピア安八	6.4.11
	安八町学校教育課	安八町教育支援チーム会議	委員	ハートピア安八	7.2.4
	草津市子ども未来課	草津市就学前教育サポート事業保育コンサルテーション	相談員	草津市子ども園	6.4～7.3
	守山市発達支援センター	守山市訪問相談事業	相談員	守山市子ども園	6.4～7.3
近江八幡市発達支援センター	近江八幡市発達支援センター	近江八幡特別支援教育巡回相談	相談員	近江八幡市小中学校	6.4～7.3

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
川島 民子	安八町学校教育課	安八町保育士研修会	講師	近江八幡市総合福祉センター	6.9.11
	大垣市保育課	大垣市保育者等研修会「特別支援」	講師	大垣みなみ子育て支援センター	6.7.1
	湖南省教育委員会	湖南省夏季研修会「教師力アップセミナー」	講師	湖南省役所	6.7.23
	米原市教育研究所	米原市夏季研修「園小連携講座」	講師	米原市役所	6.8.5
	東近江市教育研究所	東近江市教育研究所夏季研修講座（特別支援教育講座）	講師	東近江市	6.8.7
	滋賀県教育委員会	第2回滋賀県スクールカウンセラー等活用事業に係る研修会	講師	滋賀県庁	6.8.9
	大津市教育センター	大津市令和6年度特別支援教育研修4	講師	大津市生涯学習センター	6.8.20
	守山市保育幼稚園課	守山市保育幼稚園課 特別支援教育研修会	講師	守山市民ホール	6.8.22
	草津市子ども未来課	特別支援教育研修	講師	草津市立市民総合交流センターキラリエ	6.8.22
	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	令和6年度共同プログラム「特別な支援を必要とする児童・生徒・学生への対応Ⅶ」	講師	岐阜商工会議所	6.8.25
	大垣市ひまわり学園	大垣市立ひまわり学園公開講座	講師	大垣市ひまわり学園	6.9.8
	滋賀大学	教職実践演習（教育学部専門科目）	講師	滋賀大学	6.10.31
	大津市教科等領域別研究会	大津市教科等領域別研究会特別支援教育部会研究会	講師	大津市立逢坂小学校	6.11.11
	守山市教育研究所	第4回守山市初任者研修	講師	守山市生涯学習・教育支援センター	6.11.19
	近江八幡市発達支援センター	近江八幡市通級指導教室担当者研修会	講師	近江八幡市総合福祉センター	6.12.9
	湖南省発達支援センター	湖南省発達障がい市民啓発講座	講師	サンライフ甲西	7.2.1
	関ヶ原町保育園職員研修会	関ヶ原町園内研修会	講師	関ヶ原町すぎのこ園	7.3.5
大橋 淳子	社会福祉法人大垣慈光福祉会	認定こども園大垣ひかり保育園、浅草ひかりにこにこ園 理事会、監事会	理事、監事	大垣ひかり保育園	6.6.24～
	大垣市市民活動推進課	大垣市まちづくり市民活動育成支援推進委員会	委員	大垣市	6.8.1～

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
大橋 淳子	岐阜県	子育て支援員研修	講師	オンデマンド講座	6.9.14 ～ 5.10.12
	大垣市子育て総合支援センター	「パパッとで子育てを楽しもう」	講師	キッズピアおおがき 子育て支援センター	6.10.15
	ネットワーク 大学コンソー シアム岐阜	公開講座 子供の発達・成長を学ぶ「子 どもの育ちと環境について」	講師	岐阜商工会議所	6.11.14
	大垣市子育て 支援課	大垣市墨俣児童館運営委員会	委員長	大垣市	7.3.12
垣添 忠厚	垂井町	垂井町子ども・子育て会議	会長	垂井町役場	6.4.1 ～
	岐阜県レクリ エーション協会	岐阜県レクリエーション協会理事会	理事	岐阜県レクリエーショ ン協会	6.4.1 ～
	大垣市レクリ エーション協会	大垣市レクリエーション協会理事会	理事	大垣市レクリエーショ ン協会	6.4.1 ～
	岐 阜 県 キ ン ボールスポー ツ連盟	岐阜県キンボールスポーツ連盟役員会	副会長		6.4.1 ～
	大垣市教育委 員会	大垣市教育支援委員会	委員	大垣市役所	6.4.26 ～
	大垣市教育委 員会	大垣市留守家庭児童教室運営委員会	委員	大垣市役所	6.5.1 ～
	大垣市レクリ エーション協会	大垣市「クラブいちちゃれ」第1回活 動	講師	大垣市青年の家	6.5.25
	大垣市・大垣女 子短期大学	「子どもの健康づくり」		子育てママ大学 大垣女子短期大学	6.6.6
	大垣市教育委 員会	大垣市教育支援委員会小委員会	委員	スイトピアセンター等	6.9.11 6.9.19 6.9.26
	岐阜県	子育て支援員研修 基本研修「子ども の障害」	講師	オンデマンド講座	6.8.21 ～ 9.18
	岐阜県	子育て支援員研修 地域保育コース 「特別に配慮を要する子どもの対応」	講師	オンデマンド講座	6.9.19 ～ 10.17
	岐阜県立中濃 特別支援学校	全校研究会	助言者	中濃特別支援学校	6.9.16
	岐阜県	保育士等キャリアアップ研修「障害児 保育」	講師	オンデマンド講座	6.8.22 ～ 10.16
	岐阜県	保育士等キャリアアップ研修「障害児 保育」	講師	集合型研修（岐阜商工 会議所他）	6.10.5 6.10.13 7.2.1

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
垣添 忠厚	岐阜県	保育士等キャリアアップ研修「障害児保育」	講師	オンライン講座	6.11.30
	大垣市保育者等研究推進委員会	大垣市保育者等研修会「企画研修会：運動遊び」	講師	大垣市子育て総合支援センター	6.9.13
	岐阜県レクリエーション協会	レクリエーション・インストラクター養成講習会	講師	羽島市福祉ふれあい会館	6.12.8
	岐阜県	令和6年度地域療育システム推進会議（西濃圏域障がい者総合支援推進会議療育・医療的ケア部会）	検討委員	西濃総合庁舎	7.1.16
	大垣市保健センター	大垣市母子保健研修会	講師	大垣市保健センター	7.1.27
	安八町	安八町保育士研修会	講師	安八町中央こども園	7.1.28
	明蓬館高等学校	一般講演会第二部指定討論	パネリスト	みんなの森ぎふメディアコスモス	7.2.9
	美濃市ひばり園	指導方法研究会	講師	美濃市ひばり園	7.2.10
名和 孝浩	岐阜県	岐阜県子育て支援員研修	講師	長良川国際会議場、他	6.10.22 6.10.27 6.10.29
	大垣市教育委員会	大垣市保幼小連携協議会	委員	大垣市役所	7.2.4
	養老町公立保育園・こども園園長会	養老町乳幼児教育・保育研究会	講師	養老町立養北こども園	6.5.18 7.2.22
立崎 博則	守屋多々志美術館	守屋多々志美術館子どもワークショップ	講義・演習	守屋多々志美術館	6.8.25
	大垣市	大垣市保育研究会研修会「こどもの笑顔がいっぱい！未満児が喜ぶおもちゃ作り」	講義・演習	大垣市子育て総合支援センター	6.10.21
	ゆりかご保育園	ゆりかご保育園園内研修	講義・演習	ゆりかご保育園	6.10.29
	守屋多々志美術館	守屋多々志美術館子どもワークショップ	講義・演習	守屋多々志美術館	6.11.9
	守屋多々志美術館	守屋多々志美術館子どもワークショップ	講義・演習	守屋多々志美術館	7.3.1
宮本 絢子	安八町	「言葉を育む保育実践」	ミニ講座	安八町子育てサロン『すくすく』	6.11.28
田中 久志	岐阜県広告協会	第52回岐阜県広告協会賞	審査委員長	岐阜新聞社	6.5.31
	大垣市役所	行政改革推進審議会	審議委員	大垣市役所	6.8.29

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
田中 久志	岐阜県読書推進運動協議会、 中日新聞社、 岐阜県図書館	岐阜県おすすめの1冊コンクール審査他	イラストPOP 部門審査委員長	岐阜県図書館	6.11.26 ～ 7.1.25
日原 広一	大垣市 大垣市子育て総合支援センター 渡辺酒造醸	子供居場所シンボルマーク 子育てまちなかキャンパス 白雪姫プラチナラベルデザイン	学生指導 講演 学生指導	大垣市広報 キッズピアおおがき 子育て支援センター ウェブサイト	6.6.14 6.11.19 7.1.14
黒田 皇	大垣市・大垣市教育委員会 羽島市 水都大垣再生プロジェクト MIF 2024 実行委員会	令和6年度 大垣市美術展（一般の部） 令和6年度 羽島市美術展（一般の部） 大垣ストリートフェスティバル ムービング・イメージ・フェスティバル (MIF) 2024	審査 審査 展示 上映会	大垣市サイトピアセンター文化会館 不二羽島文化センター 大垣駅通一帯 愛知芸術文化センター	〔審査〕 6.10.5 〔審査〕 6.12.9 6.11.3 6.11.30
長久保光弘	岐阜県商工労働部航空宇宙産業課	空宙博「近未来の宇宙開発体感CG映像コンテンツ」制作委託業務に係るプロポーザル評価会議	評価会議の構成員	岐阜県庁	6.4.26
長久保光弘 (デザイン美術学科教員、学生)	大垣女子短期大学主催・岐阜県図書館共催	「ASIAGRAPH 2024 in Gifu CG Art Gallery」展示運営	会場設営 展示運営	岐阜県図書館企画展示室Ⅱ	6.12.13 ～ 12.15
菅田 文子	大垣市行政管理課 岐阜県教育文化財団 岐阜県教育文化財団	指定管理者評価委員会 ぎふ清流文化プラザ評価委員会 ぎふ★SHOW★フェスタ	委員 委員 審査員	大垣市役所 ぎふ清流文化プラザ ぎふ清流文化プラザ	
横井 香織	大垣市 一般社団法人岐阜国際音楽祭 大垣市 大垣市教育委員会 公益財団法人大垣国際交流協会	大垣市環境審議会 第14回 2024 岐阜国際音楽祭コンクール ピアノ部門 予選/本選 大垣市環境 SDGs おおがき未来創造事業実行委員会 大垣市日本昭和音楽村運営協議会 公益財団法人 大垣国際交流協会 令和6年度 定時評議員会	委員 審査員 委員・監事 委員 評議員・議長	大垣市 じゅうろくプラザ 大垣市役所 大垣市日本昭和音楽村 大垣市サイトピアセンター	5.7.1 ～ 7.6.30 6.4.28 / 6.5.4 6.5.1 6.5.28 6.6.12

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
横井 香織	大垣市	大垣市市民環境賞選考委員会	委員	大垣市	6.9.30 ～ 7.3.31
	大垣市子育て総合支援センター	子育てまちなかキャンパス 「リトミックであそぼう」	講師	キッズピアおおがき 子育て支援センター	6.12.17
	カワイ音楽コンクール委員会	第 58 回カワイ音楽コンクール カワイこどもピアノコンクール 岐阜地区オーディション	審査員	岐阜市文化センター小 劇場	6.12.28 7.1.12 7.1.13
森岡 佐和	岐阜県吹奏楽連盟	第 51 回岐阜県吹奏楽 コンクール岐阜東部地区大会 審査員	コンクール	可児市文化創造センター	6.7.14
	岐阜県吹奏楽連盟	第 51 回岐阜県吹奏楽コンクール 加茂・東濃地区大会 審査員	コンクール	可児市文化創造センター	6.7.24
	「管楽器ソロコンテスト in 東海」実行委員会	第 11 回管楽器ソロコンテスト in 東海 高校生部門	コンクール	金城学院大学	7.3.24
	「管楽器ソロコンテスト in 東海」実行委員会	第 12 回管楽器ソロコンテスト in 東海 中学生部門	コンクール	金城学院大学	7.3.25
松下 健二	日本抗加齢医学会	口腔の健康と脳老化の関連とその制御 シンポジウム 17 口腔から攻める脳の アンチエイジング戦略	シンポジスト	第 24 回日本抗加齢医 学会総会（熊本市）	6.6.1
	日本抗加齢医学会	シンポジウム 20 口腔細菌から始める アンチエイジング医学	座長	第 24 回日本抗加齢医 学会総会（熊本市）	6.6.1
	愛知県歯科医師会	オーラルフレイルと認知症に関するシ ンポジウム口腔の健康と認知症の関連 性について	シンポジスト	愛知県歯科医師会館 （名古屋市）	6.9.22
	名古屋市歯科医師会	NDSC セミナー：口腔の健康と認知症 の関連性について	講師	名古屋東急ホテル（名 古屋市）	6.12.23
	大垣女子短期大学・安八町	口腔の健康啓発ミニセミナー：お口の 健康と脳の関係	講師	むすぶテラス（安八町）	6.11.23
	大垣女子短期大学・安八町	口腔の健康啓発ミニセミナー：お口の 健康と脳の関係	講師	むすぶテラス（安八町）	6.12.15
	鹿児島県歯科医師会	鹿児島県歯科医師会記念行事記念講 演：お口の健康と認知症の関連性につ いて	講師	鹿児島県歯科医師会館 （鹿児島市）	6.11.9
	大垣オニキスの会	お口の健康と脳の関係	講師	大垣フォーラムホテル （大垣市）	7.1.16
Kenji Matsushita	Makoto Hagiwara, Tadasato Nagano,	HIGH GLUCOSE INHIBITS ENDOCYTOSIS OF LDL CHOLESTEROL.	国際学会 （一般公演）	26th IUBMB-17th FAOBMB Congress, Melbourne, Australia,	6.11.25

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
Kenji Matsushita	Makoto Hagiwara, Yasuhito Shimada, Liqing Zang, Tadasato Nagano	LPS IN BROWN RICE ACTIVATES PHAGOCYTOSIS.	国際学会 (一般公演)	26th IUBMB-17th FAOBMB Congress, Melbourne, Australia,	6.11.25
松下 健二	萩原 真 永野 忠聖	オルニチンによるファゴサイトーシス (食食能) 活性化機構の解析	国内学会 (一般公演)	第 78 回日本栄養・食糧学会大会 (福岡市)	6.5.25
	萩原 真 永野 忠聖	高グルコースは低分子量 G タンパク質 Rab5 によるエンドサイトーシスを抑制する	国内学会 (一般公演)	第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡市)	6.11.29
	多田 浩之 根本 英二	歯周炎における <i>Porphyromonas gingivalis</i> ジンジパインと好中球細胞外トラップによる血液脳関門破綻と認知機能低下	国内学会 (一般公演)	第 67 回秋季日本歯周病学会学術大会 (札幌市)	6.10.4
	歯科衛生学科 教員・2 年次 学生	口内環境の改善お年寄りに啓発 町で健康講座	新聞報道	岐阜新聞朝刊	6.11.24
	日本歯科基礎 医学会		代議員		
	日本歯周病学会		常任理事 (倫理委員長)		
	口腔医科学フ ロンティア		世話人		
	日本エンドト キシン・自然 免疫研究会		代議員		
	日本抗加齢学会		評議員		
	日本抗加齢歯 科医学研究会		世話人		
	日本口腔ケア 学会		評議員		
	東北大学歯学 部大学院歯学 研究科長寿口 腔科学講座		客員教授		
	北海道大学歯 学部大学院歯 学研究科長寿 口腔科学講座		客員教授		

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
松下 健二	愛知学院大学 歯学部		客員教授		
	九州大学大学院 歯学研究院 地域口腔保健 開発学分野		招聘教授		
	名古屋医健ス ポーツ専門学校 歯科衛生科		非常勤講師		
大林 泰二	東海地区歯科 衛生士教育協 議会	総会および研修会	学術集会	ウインクあいち	6.6.29
	広島大学歯学部	歯科総合演習Ⅱ	講義	広島大学歯学部	6.6.19
吉田 康夫	日本細菌学会 会員		評議員		
	日本細菌学会中 部支部会会員		評議員		
	歯科基礎医学 会会員		代議員		
	日 本 バ イ オ フィルム学会		評議員		
	大垣市行政改 革審議会		委員	大垣市役所	6.10.2 6.10.30
	松本歯科大学		非常勤講師	4年生微生物学講義	6.8.21 6.9.3
	愛知学院大学		非常勤講師	3年生微生物学実習	6.10.11
水嶋 広美	日本口腔ケア 学会	評議委員会	評議員	一橋講堂（東京）	6.4.26
松下 健二 吉田 康夫 水嶋 広美 川畠 智子	岐阜県歯科医 師会・大垣女 子短期大学	岐阜県歯科医師会との第1回臨床実習 説明会	会議	岐阜県歯科医師会館	6.8.8
松下 健二 吉田 康夫 水嶋 広美 今井 藍子	岐阜県歯科医 師会・大垣女 子短期大学	岐阜県歯科医師会との第2回臨床実習 説明会	会議	岐阜県歯科医師会館	6.8.22
松下 健二 吉田 康夫 水嶋 広美 大谷 悦世	大垣歯科医師 会・大垣女子 短期大学	大垣歯科医師会への臨床実習説明会	会議	大垣歯科医師会	6.8.29

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
松下 健二 大林 泰二 吉田 康夫 水嶋 広美 川畠 智子 今井 藍子 藤塚 未子	大垣市 まちなかスク エアガーデン	歯のお仕事体験	小集団指導	丸の内公園（大垣）	6.6.2
水嶋 広美 吉田 康夫	滋賀県歯科医 師会	第 19 回「求人歯科衛生士・求人歯科 医院のためのマッチングプログラム」	小集団指導	コラボしが 21（大津）	6.8.25
松下 健二 大林 泰二 吉田 康夫 山田 三良 水嶋 広美 川畠 智子 藤塚 未子	令和 6 年度私 立大学地方創 生推進事業 大垣女子短期 大学歯科衛生 学科	お口の健康調べてみませんか	小集団指導	安八町むすびテラス	6.11.23
松下 健二 大林 泰二 吉田 康夫 山田 三良 水嶋 広美 川畠 智子 大谷 悦世 藤塚 未子	令和 6 年度私 立大学地方創 生推進事業 大垣女子短期 大学歯科衛生 学科	お口の健康調べてみませんか	小集団指導	安八町むすびテラス	6.12.15
山田 三良	日本歯科保存 学会	評議員	学会役員		2019.4.1～
	日本レーザー 歯学会	代議員	学会役員		2011.2.21～
	日本歯科審美 学会	代議員	学会役員		5.6.11 ～
松下 健二 山田 三良	大垣女子短大 歯 科 衛 生 学 科・一宮市歯 科医師会	本学歯科衛生士学科の特徴および独自 性について	懇談会	一宮市歯科医師会館	6.10.23
	大垣女子短大 歯 科 衛 生 学 科・一宮市歯 科医師会	臨床実習および学生募集の協力	懇談会	一宮市歯科医師会館	6.11.27
今井 藍子	岐阜県歯科衛 生士会	岐阜県歯科衛生士会西濃支部 支部長		岐阜県	
	大垣市 大垣市医師会	大垣市在宅医療・介護連携推進事業 多種職連携・普及啓発部会		大垣市医師会館	

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
大谷 悦世	岐阜県歯科衛生士会	岐阜県歯科衛生会 総務担当理事			6.4～
	東海障害者歯科臨床研究会		幹事		6.9～
藤塚 未子	岐阜県歯科衛生士会	岐阜県歯科衛生士会 西濃支部 役員			継続
茂木 七香	岐阜県後期高齢者医療広域連合	岐阜県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会	委員		6年度
	大垣市地域創生戦略課	大垣市地域創生総合戦略推進委員会	委員		6年度
	大垣市男女共同参画推進室	大垣市男女共同参画推進審議会	委員		6年度
	大垣市	大垣市行政不服審査会・情報公開審査会・個人情報保護審査会	委員		6年度
	大垣市役所企画部人事課	大垣市メンタルヘルス事業	講義・個別相談	大垣市役所	6年度
	大垣市消防組合	健康相談事業（メンタルヘルス）	個別相談	大垣市役所	6年度
	大垣市保育者等企画研修会	保育研究会 講師	講演	大垣市子育て総合支援センター	6.6.5
	ネットワークコンソーシアム岐阜	公開講座「岐阜に生きる 岐阜と生きる 『大学と地域連携』」	講演	岐阜商工会議所	6.9.12
	大垣市立赤坂幼稚園	園内研修	講演	大垣市立赤坂幼稚園	6.9.17
	大垣市・大垣女子短期大学	子育てに役立つ心理学	講義	子育てママ大学 大垣女子短期大学	6.10.3
	大垣市男女共同参画推進室	男女共同参画に関する研修会	講義	大垣市役所	6.12.12
	大垣市子育て総合支援センター	「子育てに役立つ発達心理学の知識」	講義	キッズピアおおがき 子育て支援センター	7.2.18
伊藤 和典	海津市教育委員会	海津市社会教育委員会	委員	海津市	6.5.17
	養老町	養老町行政改革推進審議会	委員	養老町	6.10.24
	海津市教育委員会	海津市社会教育委員会	委員	海津市	7.1.16
小椋 博文	岐阜県立不破高等学校	教科書選定委員会	助言	岐阜県立不破高等学校	6.6.28
	岐阜県教育委員会	岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト	審査員	岐阜県図書館	6.10.13
	岐阜県教育委員会	国外大学等プログラムプロポーザル評価会議	評価委員	岐阜県教育センター	7.3.24

C. 出 前 講 義

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	黒野こども園	日常生活の音楽から子どものリズム感・表現力を育てよう	講師	黒野こども園	6.4.23, 6.12.3
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス	模擬授業	岐阜メモリアルセンター	6.7.10
	㈱さんぼう	進路ガイダンス	模擬授業	岐阜県立不破高等学校	6.10.15
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス	学校説明会 (ブース形式)	岐阜県立大垣養老高等学校	6.12.18
川島 民子	㈱日本ドリコム	進路ガイダンス (子ども・保育)	分野別説明会	岐阜県立池田高等学校	6.10.30
	㈱ライセンス アカデミー	進路相談会 (保育・幼児教育)	分野別説明会 個別相談	岐阜市立岐阜商業高等学校	6.12.16
大橋 淳子	㈱さんぼう	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	分野別説明会	岐阜県立大垣養老高等学校	6.10.9
	㈱ TAP	進路ガイダンス (幼児教育・保育)	分野別説明会	岐阜県立岐阜女子高等学校	6.11.15
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	進路相談会	岐阜県立各務野高等学校	6.11.29
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス (保育)	学校説明会 (ブース形式)	岐阜県立大垣養老高等学校	6.12.17
垣添 忠厚	チエルコミュニケーション ブリッジ㈱	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	分野別説明会	岐阜県立不破高等学校	6.5.14
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス (幼児教育・保育)	模擬授業	岐阜県立各務原高等学校	6.6.17
	チエルコミュニケーション ブリッジ㈱	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	分野別説明会	岐阜県立大垣桜高等学校	6.6.26
	チエルコミュニケーション ブリッジ㈱	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	模擬授業・ 学科説明	岐阜県立飛騨高山高等学校	6.7.11
	チエルコミュニケーション ブリッジ㈱	進路ガイダンス (幼児教育)	職業理解の 為の説明会	富田高等学校	6.10.17
	㈱キッズコー ポレーション	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	分野別説明会	岐阜県立岐阜農林高等学校	6.11.28
	垂井町立岩手 小学校 PTA	出前講座 5・6年 PTA 親子研修「睡眠と健康」	親子参加型 授業	垂井町立岩手小学校	6.12.2
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス (幼稚園教諭・保育士)	職業別体験 授業	岐阜県立郡上北高等学校	6.12.11

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
垣添 忠厚	安八町立結小学校家庭教育学級	出前講座 1年生親子教室「幼児の運動発達と遊び」	親子参加型授業	安八町立結小学校	7.1.27
名和 孝浩	㈱ライセンスアカデミー	進路ガイダンス（保育）	分野別説明会	岐阜県立池田高等学校	6.5.15
	㈱キッズコーポレーション	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会（ブース型）	岐阜県立岐阜総合学園高等学校	6.5.22
	㈱ライセンスアカデミー	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会	岐阜県立大垣桜高等学校	6.7.10
	㈱さんぼう	進路ガイダンス（幼児教育・保育）	分野別説明会	岐阜県立大垣養老高等学校	6.11.6
立崎 博則	㈱キッズコーポレーション	高校内ガイダンス	講義・演習	各務野高校進路ガイダンス	6.6.14
	㈱ライセンスアカデミー	ライセンスナビゲーション 2024 体験ブース	講義・演習	岐阜メモリアルセンター	6.7.10
	㈱TAP	高校内ガイダンス	講義・演習	県立羽島高校	7.2.5
岡本 英通	㈱日本ドリコム	進路ガイダンス（保育・幼児教育の仕事）	職業分野別説明会	岐阜県立岐阜商業高等学校（定時制）	6.5.30
	㈱ライセンスアカデミー	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	職業別体験授業	岐阜県立大垣商業高等学校（定時制）	6.6.26
	チエルコミュニケーションブリッジ㈱	進路ガイダンス（幼児教育）	職業理解の為の説明会	富田高等学校	6.10.17
	㈱ライセンスアカデミー	進路相談会（幼児教育・保育）	進路相談会	清凌高等学校	6.12.2
	㈱さんぼう	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	職業別体験授業	岐阜県立揖斐高等学校	6.12.12
	㈱さんぼう	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会	岐阜県立益田清風高等学校	7.2.13
宮本 絢子	㈱TAP	進路ガイダンス（幼児教育・保育）	分野別ガイダンス	岐阜県立羽島高等学校	6.9.11
	㈱キッズコーポレーション	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会	岐阜県立羽島北高等学校	6.10.7
田中 久志	大垣市・大垣女子短期大学	「○・△・□で絵を描こう」	講義・演習	子育てママ大学 大垣女子短期大学	6.7.4
	私立岐阜第一高等学校	分野別体験授業（美術・デザイン）	講義・演習	私立岐阜第一高等学校	6.7.8

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
田中 久志	岐阜県立加茂高等学校 定時制	分野別体験授業（デザイン・イラスト）	講義・演習	岐阜県立加茂高等学校	6.9.9
	岐阜県立大垣養老高等学校	分野別体験授業（デザイン・美術）	講義	岐阜県立大垣養老高等学校	6.10.9
	岐阜県立華陽フロンティア高等学校	職業別体験授業（イラスト・デザイン）	講義・演習	岐阜県立華陽フロンティア高等学校	6.11.14
	清凌高等学校	職業別体験授業（アニメ・イラスト）	講義・演習	清凌高等学校	6.12.11
	長野県阿智高等学校	職業別説明会（イラスト）	講義	長野県阿智高等学校	7.1.22
日原 広一	青山高校	商品開発は想いを伝えること	出前講座	青山高校	5.10.6
	岐阜第一高等学校	商品デザイン開発	出前講座	岐阜第一高等学校	6.11.11
	聖マリア高校	商品デザイン開発	進路相談会	聖マリア高校	6.11.28
	清涼高校	商品デザイン開発	進路ガイダンス	清涼高校	6.12.2
	誠心高校	デザインマーケティング	進路ガイダンス	誠心高校	6.12.12
	大垣商業高校	デザインマーケティング	進路ガイダンス	大垣商業高校	6.12.13
	岐阜県農林高校	商品開発は想いを伝えること	進路ガイダンス	岐阜県農林高校	7.2.10
黒田 皇	岐阜県教育委員会	伝わる！作れる！動画の撮影や編集のポイント ～教材としての動画活用のために～	教職員研修 講義	岐阜県総合教育センター	6.8.27・ 6.11.11
	岐阜県立不破高等学校	分野別説明会：デザイン・イラスト	進路ガイダンス	岐阜県立不破高等学校	6.5.14
	岐阜県立池田高等学校	分野別説明会：デザイン	進路ガイダンス	岐阜県立池田高等学校	6.5.15
	長野県阿智高等学校	職業別説明会：芸術・デザイン	進路ガイダンス	長野県阿智高等学校	6.6.4
	岐阜県立岐阜工業高等学校	職業別説明会：アニメーターの仕事	進路ガイダンス	岐阜県立岐阜工業高等学校	6.6.10
	岐阜聖徳学園高等学校	分野別模擬授業：芸術（美術）	体験授業	岐阜聖徳学園高等学校	6.6.19
	岐阜県私立聖マリア女学院高等学校	模擬授業：美術・デザイン	模擬講義	岐阜県私立聖マリア女学院高等学校	6.7.9
	富田高等学校	分野別説明会：美術・デザイン（短期大学）	進路ガイダンス	富田高等学校	6.10.3

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
黒田 皇	富田高等学校	進路ガイダンス：デザイン	進路ガイダンス	富田高等学校	6.10.17
	岐阜県立山県高等学校	職業別説明会：デザインの仕事	進路ガイダンス	岐阜県立山県高等学校	6.10.31
	愛知県立常滑高等学校	【大学・短期大学】芸術（デザイン）	分野別比較検討説明会	愛知県立常滑高等学校	7.1.29
	長野県下伊那農業高等学校	イラスト・デザイン関連	職業別ガイダンス	長野県下伊那農業高等学校	7.1.30
	岐阜県立岐阜城北高等学校	美術系【大学・短期大学】	分野別学校比較検討説明会	岐阜県立岐阜城北高等学校	7.2.18
長久保光弘 (デザイン 美術学科教 員、学生)	大垣市商店街振興組合連合会	オオガキストリートフェスティバル 大垣女子短期大学 Girls クリエイター コンペティション	作品展示	大垣駅通り	6.11.3
	㈱ TAP	進路ガイダンス	分野別	岐阜女子高等学校	6.11.15
	㈱さんぼう	アニメキャラクター・メイキングCG	職業体験	県立伊香高等学校	6.12.13
	㈱ライセンスアカデミー	アニメキャラクター・メイキングCG	職業体験	岐阜県立関有知高等学校	7.2.10
	㈱さんぼう	進路説明会	進学説明	県立伊吹高等学校	7.3.11
松永 幸宏	大垣女子短期大学	進学相談会		福岡県博多	6.4.13
	大垣女子短期大学	進学相談会		北海道札幌	6.4.20
	㈱ライセンスアカデミー	土岐商業高校ガイダンス		土岐商業高校	6.5.9
	㈱ライセンスアカデミー	東農実業高校・土岐商業高校・関商高校ガイダンス		可児市文化創造センター	6.5.25
	㈱ライセンスアカデミー	土岐商業高校ガイダンス		土岐商業高校	7.2.17
	チエル	進学相談会ガイダンス		アクトシティ浜松	7.2.19
	㈱さんぼう	彦根翔西館高校ガイダンス		彦根翔西館高校	7.3.17
菅田 文子	大垣市・大垣女子短期大学	「ミュージックベルでクリスマスソング演奏」	講義・演習	子育てママ大学 大垣女子短期大学	6.12.5
	㈱ TAP	音楽（音楽療法）について	講義	長浜北高校	7.1.27
松下 健二	大垣市日新小学校 PTA	特別講演：むしば菌のうんちの話	出前授業	大垣市日新小学校	6.6.15
大林 泰二	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	分野別説明会	岐阜県立大垣商業高校	6.12.13

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
吉田 康夫	大垣市	子育てにおけるお口のトラブルとその 解消法	講演	大垣女子短期大学	6.11.6
	大垣市・大垣 女子短期大学	こどもの歯と顎のあれこれ	講演	子育てママ大学 大垣女子短期大学	6.11.7
			高校ガイダンス	稲沢東高校	6.6.13
			高校ガイダンス	誠信高校	6.7.11
			高校ガイダンス	享栄高校	6.7.5
			高校ガイダンス	中京高校	6.12.12
			高校ガイダンス	誠信高校	6.10.22
	大垣市子育て総 合支援センター	なぜ親子間で箸を分ける必要がないの か？	講演	キッズピアおおがき 子育て支援センター	7.1.21
水嶋 広美	チェルコミュ ニケーション ブリッジ㈱	1年生進路ガイダンス（分野別歯科衛 生士職業説明会）	小集団指導	岐阜県県立大垣桜高等 学校	6.6.26
	㈱ TAP	1年生進路ガイダンス（職業理解説明会）	小集団指導	岐阜県立羽島高等学校	6.9.11
川畠 智子	養北保育園	歯みがき指導	指導	養北保育園	5.9.12
	養北保育園	子どものお口の健康	講演	養北保育園	5.11.19
大谷 悦世	㈱さんぽう	進路ガイダンス	進路相談会	岐阜県立岐阜総合学園 高等学校	6.7.1
	㈱さんぽう	進路ガイダンス	職業別体験 授業	飛鳥未来高等学校	6.11.28
	垂井町子育て 支援センター	出前講座	講義	垂井町子育て支援セン ターつくしんぼ	7.2.14
小椋 博文	岐阜県立長良 高等学校	面接・志望理由書対策講座	講義	岐阜県立長良高等学校	6.10.3
	岐阜県立羽島 北高等学校	面接・志望理由書対策講座	講義	岐阜県立羽島北高等学校	6.10.21
	岐阜県立長良 高等学校	面接・志望理由書対策講座	講義	岐阜県立長良高等学校	6.10.28

大垣女子短期大学 紀 要

第 66 号

(非売品)

印刷日	令和 7 年 11 月 30 日
発行日	令和 7 年 11 月 30 日
編 集	図書・生涯学習委員会
発 行	大 垣 女 子 短 期 大 学 大垣市西之川町 1-109 TEL (0584) 81-6811
印 刷	ニホン美術印刷株式会社 大垣市西外側町 2-15 TEL (0584) 78-2171